

製造業向け 階層別研修のご案内

ワクコンサルティング株式会社

<https://waku-con.com/>

企業の教育研修体系（製造業業務研修）

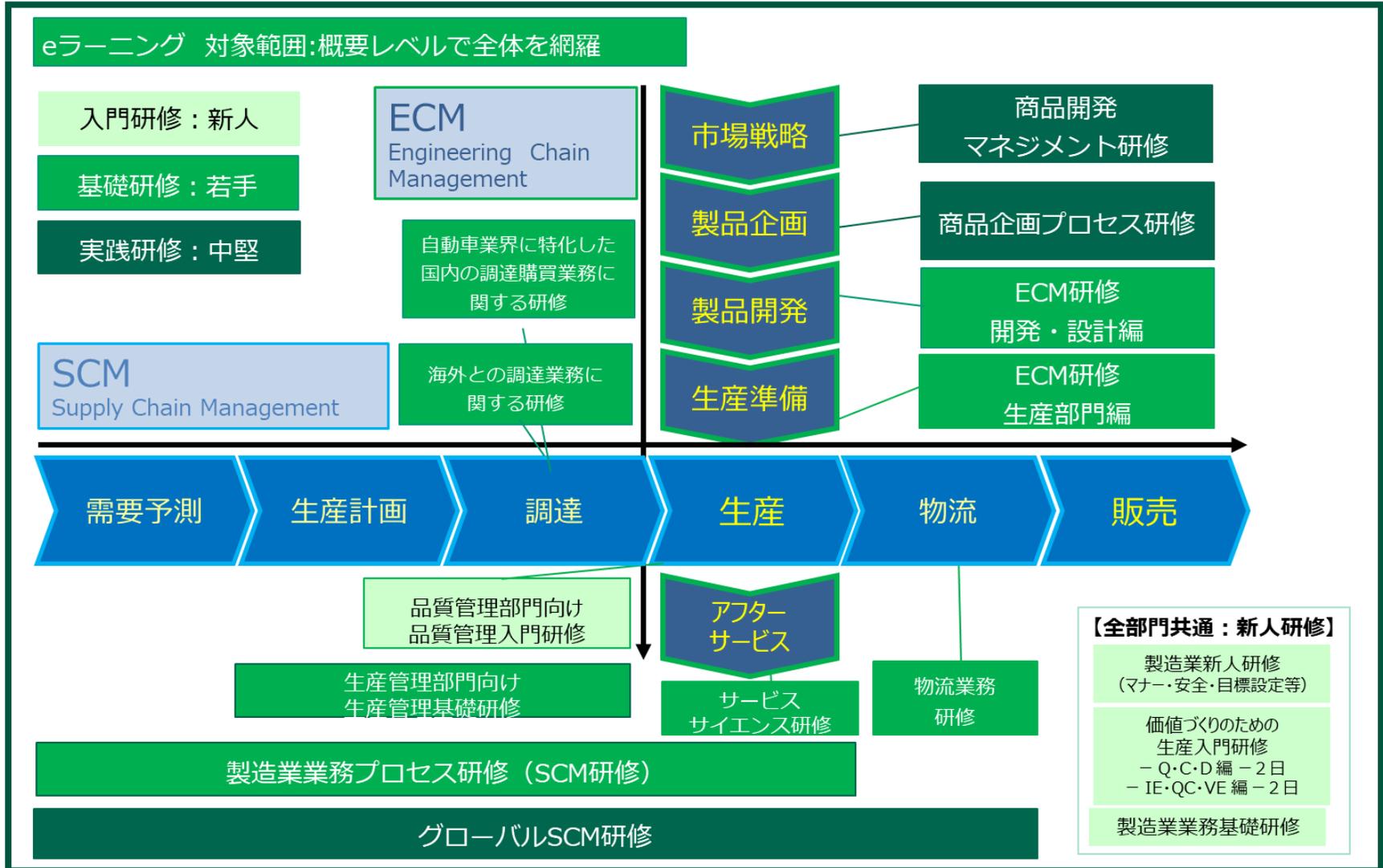
当社の研修サービスは製造業における管理技術（管理マネジメント）に特化した研修を提供しています。

弊社がカバーする
研修範囲

階層	階層別研修	専門教育（例：業務研修）	
		技術研修（固有技術）	業務研修（管理技術）
経営幹部	上級管理者研修	戦略の策定と実行、意思決定の実践力	
管理職	管理者研修	専門分野の知識を生かし改善・改革を遂行する。	
中堅社員	中堅社員研修	専門分野を学ぶ	
若手社員	若手社員研修	業務の基礎を学ぶ	
新入社員	新人研修	業務の基礎を学ぶ	

製造業業務プロセス研修シリーズ

弊社の業務プロセス研修シリーズは各管理業務の基礎知識習得を中心とし、業務課題の把握・整理、改革手法を身に着けることで、業務改革・改善に遂行できる人材育成を目指します。



ご参考：「製造業向け 階層別研修」体系図

※Ctrlキーを押しながらクリックでリンク先（簡易アジェンダ）を表示いたします。

領域 テーマ	必須	オプション（部門別）							
	階層別 研修	共通	設計開発	品質管理	生産管理	購買管理	物流	グローバル SCM	現場改善 スキル
工場長 経営 幹部	製造業 新任取締役 研修	工場長育成プログラム 工場長育成コース							製造業幹部・ 工場長・工場 管理者育成 研修
管理者	製造業 管理者職 社員研修	D X時代を 見据えた新 規事業開発 研修	サービスサイエンス研修 商品開発マネジメント 商品企画プロセス研修						写真事例で学ぶ製造現場の問題発見着眼力研修 ものづくりコストマネジメント研修 未然防止セミナー トップエンジニアが実践する成功につな がる、ロジカル問題解決メソッド
中堅	製造業 中堅社員 研修	製造業業務プ ロセス研修 (SCM編)				生産管理 基礎	海外との調達業務に関する 研修	国内の調達購買業務に関する 研修	
若手	製造業 若手社員 研修	または eラーニング	製造業業務 プロセス ECM研修 開発・設計編		生産管理 基礎			物流業務 研修	
新人	製造業 新人研修	製造業業務 基礎 ・価値づくりのための生 産入門 ①- Q・C・D 編 - ②- IE・QC・VE 編 -			製造業業務プロセス ECM研修 生産部門編				品質管理 入門

コース概要 階層別研修



カテゴリー	研修コース名称	概要	期間	対象				
				新人	若手	中堅	管理職	役員
階層別	製造業新人研修	社会生活のスタートとして、まず学生から社会人・職業人としての違いを認識し、意識改革を図ります。次に社会人として必須なビジネスマナーや実務の基本を習得し、仕事の進め方の基本やチームワークの大切さを学び、さらに安全最優先として作業に向きあう姿勢を身に付けます。研修終了後は円滑な職場生活への移行を目指します。	3日	●				
	製造業若手社員研修	若手社員は職場の活性化にとって重要な役割を担い、会社の成長の源泉として戦力人材となることが重要です。そのためには、若手を対象に、日常業務を振り返っての役割行動を再認識し、業務意欲向上を図ってもらいます。また若手に求められるテーマ毎に学習することで、ご自身の強みとして知識を定着頂き、組織に貢献するために必要な考え方や価値観を身に付けて頂きます。	2日		●			
	製造業中堅社員研修	中堅リーダーとしての立場と役割を認識し、期待されるリーダーを見据えて俯瞰した物事の見方を理解し、目線を個人から組織に広げて、部署全体・課全体の事を考え、部分最適から全体最適な考え方を学びます。また組織の目的・目標に向けたリーダーシップを発揮し組織を牽引したり後押しする重要性を理解し、組織に所属する働く人の全ての人々がリーダーシップを発揮できる環境を醸成することを理解頂きます。	2日			●		
	製造業管理職社員研修	製造現場の生きた知見を基に、貴社管理職を対象に人を育成し、継続的に会社が成長する礎を築きます。具体的には、組織の視点からチーム全体の生産性を向上すること、現状に満足せず、常に自らの力を高め、改善・改革に取り組みが成長に寄与することを理解します。一方でリスクに対する未然防止や再発防止等の取組を通じた経営の基本管理も理解します。	2日				●	
	製造業新任取締役研修	新任取締役・執行役員・役員候補者を対象として、経営リーダーとしての資質・能力を習得し、自己変革を促し、戦略の策定と実行、意思決定の実践に役立てていただきます。経営に関するテーマを2日間で網羅的・体系的に学習する貴重な機会として位置付けており、次世代経営幹部の方に必須知識の習得や実践的に活かして頂くための特別なプログラムです。	2日					●

コース概要 (管理業務知識)

カテゴリー	研修コース名称	概要	期間	対象		
				新人	若手	中堅
業務知識 入門	製造業業務基礎研修	製造業向けリユースを展開しているICT企業または製造業の新入社員（中途入社含む）を対象としたコースで、製造業の各業務をやさしく学び網羅性を持たせることにより、業界用語を交えて説明される話が理解できます。	1日	●		
	価値づくりのための生産入門研修 - Q・C・D 編 -	製造業の価値づくりに貢献できる人財の育成を狙いとして、製造業や工場の知識・経験が乏しい新入社員や中途採用者の方々を対象に、生産部門の果たす役割や生産のしくみについて、基本知識を習得いただけます。	2日	●		
	価値づくりのための生産入門研修 - IE・QC・VE 編 -	製造業の価値づくりに貢献できる人財の育成を狙いとして、製造業や工場の知識・経験が乏しい新入社員や中途採用者の方々を対象に、ものづくりで大きな価値を生み出してきた管理技術 I E・Q C・V Eの基礎を、学ぶことができる入門講座です。	2日	●		
	品質管理部門向け品質管理入門研修	品質とは何かから始めて、まずは品質の概念を学んで頂きます。 メーカーで働く人必須の品質基礎知識、加えて、4M 管理とは何を学習して頂きます。	1日	●		
業務知識 基礎	生産管理部門向け生産管理基礎研修	本研修では生産管理を分かりやすく、実践に即したプログラムで基本的な考え方や技法を体系的に学んでいただけます。	2日		●	●
	製造業業務プロセス研修 (SCM研修)	製造業の業務プロセスを体系的に学ぶことにより、効率的な日常業務の推進、業務改革や情報システム構築を成功に導くための基礎知識を習得します。	2日		●	●
	e-ラーニング 「製造業業務研修シリーズ」	製造業における業務改革や情報システム構築の推進や成功に導くための業務の基礎知識を習得いたします。 全業務をカバーしており、サプライチェーンやエンジニアリングチェーンを体系的に理解できます。（全14コース）	8週間 ~		●	●
	製造業業務プロセス研修 (ECM研修 開発・設計編)	ものづくり企業のR&D部門の組織や役割、他部署との関係および具体的な開発業務で行っている内容を演習を交えて体験いたします。また、それらを基に設計情報を体系的に学び、最後にECMの事例を紹介いたします。	2日	●	●	
	製造業業務プロセス研修 (ECM研修 生産部門編)	SCMとECMのカナメとなる生産部門の役割と生産のしくみについて学びます。また原価低減の必要性や品質意識の向上、不良低減の方法、安全・環境管理等についても学び、生産革新を目指す、未来を担う人材を育成いたします。	2日	●	●	

コース概要（管理業務知識）



カテゴリー	研修コース名称	概要	期間	対象		
				新人	若手	中堅
業務知識 実践	物流業務研修	物流業務（物流業の機能、販売物流、物流IT、ロジスティクス・オペレーション、物流コスト、国際物流など）を基礎から体系的に、事例及びケーススタディを交えて学ぶコースです。	2日		●	●
	自動車業界に特化した国内の調達購買業務に関する研修	調達購買業務を体系的に習得いたします。 ※本講座は自動車メーカーに特化した調達購買業務の内容になっています。 ※ご相談に応じてカスタマイズいたします。	1日		●	●
	海外との調達業務に関する研修	調達購買業務を体系的に習得いたします。 購買業務全体の中での海外調達の位置づけ、海外調達とグローバルソーシングの違い、2000年代に本来のグローバル調達に舵を切ったゴーン日産時代の経験談も織り込みながら、講義を進めます。	1日		●	●
	サービスサイエンス研修	当研修では、サービスの本質論に加え、実際に新たなサービスの在り方を推進するための方法論を、事例と共に学んで頂きます。	1日	あらゆる業種のサービス開発やサービス向上を推進するリーダーや組織長、サービス経営人材の方		
	商品開発マネジメント研修	「商品開発マネジメント」のコンセプト、商品開発マネジメントの実プロセスを理解し、その実施手順を身に付けます。 商品開発マネジメントプロセスで使用する分析手法やツール類も理解できます。	1日		●	●
	商品企画プロセス研修	『商品企画プロセス』とは何かを概要レベルで理解いたします。 商品企画プロセスフローを理解し、その実施手順を身に付け、商品企画プロセスで使用する分析手法や分析ツールを理解し実践で役立てることを目指しています。	1日		●	●
	グローバルSCM研修	企業間（や組織間）を国際的に横に結ぶグローバルサプライチェーンと、企業内（または企業間）を縦に結ぶエンジニアリングチェーンの両方の視点から、それらを支える計画と管理業務とその業務改善・改革の基本を学習します。	1～3日			●

コース概要（現場改善スキル）



カテゴリー	研修コース名称	概要	期間	対象				
				新人	若手	中堅	管理職	役員
現場改善スキル	未然防止セミナー『品質トラブル・事故ゼロの実現』	本セミナーでは、トラブル・事故発生時の緊急対応、再発防止での根本原因の究明、そして未然防止におけるリスクの気付きを通して、業務上のトラブルゼロを実現する方法についてお伝えします。	1日			●	●	
	写真事例で学ぶ製造現場の問題発見着眼力向上研修	日常現場や製造現場で起きる問題の発見と着眼力を高め、不良やトラブルの早期解決、未然防止や生産性向上に役立つ内容を理解し、効果的な現場改善ができるように現場の問題を捉える“眼”を養います。 現場改善・生産性向上活動に取り組む管理者と実践担当者のための“問題を問題として認識する能力”を身に付ける研修です。	1日		●	●	●	
	モノづくりコストマネジメント研修	モノづくり企業がモノづくりに費やすコスト対象の構造を、「直接モノづくりに係るコスト」や「間接的コストとして捉えざるを得ない組織形態も含めた捉え方」、さらには、それらのモノづくりコストを「お客様からコスト回収する方法」、あるいは、マーケット・インに求められるターゲット・コストングを実現させるための「コスト改善の観点視点の見方・考え方・進め方」を学習します。 モノづくりのコスト競争力を向上させたいとお考えの皆様には、有益な研修内容です。	1日		●	●	●	
	トップエンジニアが実践する“成功につながる”ロジカル問題解決メソッド	本セミナーでは、「問題」と「課題」の違いを理解し、現場での問題発見と解決に必要な着眼点を学びます。さらに、問題解決だけでなく「成功に向けた課題設定と達成」に必要な思考法とフレームワークを習得します。また、IE（インダストリアル・エンジニアリング）、QC（品質管理）、VE（価値工学）といった管理技術に加え、TRIZ（発明的問題解決理論）やデザイン思考を活用し、ロジカルかつ創造的に課題へアプローチする力を養います。後半では、実践的なワークショップを通じて、課題設定から行動計画の作成までを体験し、学んだ内容を業務にすぐ活かせるスキルとして定着させます。	1日		●	●		
	製造業幹部・工場長・工場管理者育成研修	本研修は材料・素材の調達から始まり、製造、製品倉入れ、出荷に至るまでの日常の生産活動の重要管理項目はもとより、製造原価と損益、内製・外作の判断、利益とキャッシュフローとの関係、設備投資の意思決定、赤字製品や黒字製品への対応、工場変動要因への対処方法など、原価管理・管理会計やファイナンスの知識を活用した課題解決方法の学習に及びます。また、理解を確実にするため、研修内容には実課題に対する演習を組み込んでおります。	5日				●	

コース概要（工場長育成）



カテゴリー	研修コース名称	概要	期間	対象				
				新人	若手	中堅	管理職	役員
工場長育成	工場長育成プログラム	工場長として求められる職責・職位という視点から、受講者に合わせた育成プログラムを構築いたします。	応相談				●	
	工場長育成コース	現場を率いる工場長に必要なスキルと役割を体系的に学ぶための6日間の研修です。工場長としてのリーダーシップや経営視点の養成から、技術や人材の継承方法、問題解決能力の強化、情報共有と創造性を促進するための「言える化」まで、幅広い内容を網羅します。特に、現場で直面する課題に対して、実践的に役立つアプローチを学び、現場の問題解決を加速する力を身につけることができます。	6日				●	

階層別研修

	<p>製造業新人研修</p>								
<p>コース概要</p>	<p>社会生活のスタートとして、まず学生から社会人・職業人としての違いを認識し、意識改革を図ります。次に社会人として必要なビジネスマナーや実務の基本を習得し、仕事の進め方の基本やチームワークの大切さを学び、さらに安全最優先として作業に向きあう姿勢を身に付けます。研修終了後は円滑な職場生活への移行を目指します。</p> <p>* 職場生活のフォローアップとして半年後の新人フォローアップ研修も推奨いたします。基本行動の定着化に加え、実務経験からの意見交換を通じて新たな気付きを喚起し、実務に活かしていただく環境を醸成いたします。またコミュニケーションや報連相等、新人にとって重要なテーマを深堀致します。</p> <p>* 各テーマ毎にグループワークを設定しております。自ら考え伝えあい、気づき合うことを通じて社会人としての力量を養成します。</p> <table border="1" data-bbox="459 565 1929 1001"> <tr> <td data-bbox="459 565 828 779"> <p>1、学生から社会人へ 就職は人生の重要な転機にあたります。働く目的・会社とは・社会人と学生の違いを学び、社会人への意識や自己変革を促します。</p> </td> <td data-bbox="828 565 1195 779"> <p>2、ビジネスマナー 社会人としての基本行動となる挨拶から始まり、各種ビジネスマナーや敬語の使い方を学び体験による定着を目指します。</p> </td> <td data-bbox="1195 565 1562 779"> <p>3、実務基礎 実務基本としての報連相や指示の受け方・メモの取り方・電話にかけ方・文書の書き方等の学びを通じて円滑な職場配置と実践的な業務の進め方を学びます。</p> </td> <td data-bbox="1562 565 1929 779"> <p>4、仕事の進め方 仕事の進め方としての管理サイクル（PDCA）を理解します。また製造業の基本となる5S活動や改善活動を事例を交え理解します。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 779 828 1001"> <p>5、コミュニケーション コミュニケーションのポイントを理解し上司や取引先との会話を想定した聴くワークや効果的に伝える手法（PREP法）をマスターします。</p> </td> <td data-bbox="828 779 1195 1001"> <p>6、安全衛生基本 安全・健康第一の意義や労働災害発生メカニズムを理解し、働きやすい職場環境を醸成するための自主的安全衛生活動を模擬実践頂きます。</p> </td> <td data-bbox="1195 779 1562 1001"> <p>7、組織力 組織の一員として、チームワークの重要性と組織と人間関係を理解し、チームビルディングを通じたチームワークを体験頂き、チームワークを機能させるポイントを学びます。</p> </td> <td data-bbox="1562 779 1929 1001"> <p>8、目標設定 研修からの学びを通じて、ご自身の1年後の目標（あるべき姿）を設定し、受講者全員の前でスピーチをしてもらいます。またフォローアップ研修では振り返りに活用いたします。</p> </td> </tr> </table>	<p>1、学生から社会人へ 就職は人生の重要な転機にあたります。働く目的・会社とは・社会人と学生の違いを学び、社会人への意識や自己変革を促します。</p>	<p>2、ビジネスマナー 社会人としての基本行動となる挨拶から始まり、各種ビジネスマナーや敬語の使い方を学び体験による定着を目指します。</p>	<p>3、実務基礎 実務基本としての報連相や指示の受け方・メモの取り方・電話にかけ方・文書の書き方等の学びを通じて円滑な職場配置と実践的な業務の進め方を学びます。</p>	<p>4、仕事の進め方 仕事の進め方としての管理サイクル（PDCA）を理解します。また製造業の基本となる5S活動や改善活動を事例を交え理解します。</p>	<p>5、コミュニケーション コミュニケーションのポイントを理解し上司や取引先との会話を想定した聴くワークや効果的に伝える手法（PREP法）をマスターします。</p>	<p>6、安全衛生基本 安全・健康第一の意義や労働災害発生メカニズムを理解し、働きやすい職場環境を醸成するための自主的安全衛生活動を模擬実践頂きます。</p>	<p>7、組織力 組織の一員として、チームワークの重要性と組織と人間関係を理解し、チームビルディングを通じたチームワークを体験頂き、チームワークを機能させるポイントを学びます。</p>	<p>8、目標設定 研修からの学びを通じて、ご自身の1年後の目標（あるべき姿）を設定し、受講者全員の前でスピーチをしてもらいます。またフォローアップ研修では振り返りに活用いたします。</p>
<p>1、学生から社会人へ 就職は人生の重要な転機にあたります。働く目的・会社とは・社会人と学生の違いを学び、社会人への意識や自己変革を促します。</p>	<p>2、ビジネスマナー 社会人としての基本行動となる挨拶から始まり、各種ビジネスマナーや敬語の使い方を学び体験による定着を目指します。</p>	<p>3、実務基礎 実務基本としての報連相や指示の受け方・メモの取り方・電話にかけ方・文書の書き方等の学びを通じて円滑な職場配置と実践的な業務の進め方を学びます。</p>	<p>4、仕事の進め方 仕事の進め方としての管理サイクル（PDCA）を理解します。また製造業の基本となる5S活動や改善活動を事例を交え理解します。</p>						
<p>5、コミュニケーション コミュニケーションのポイントを理解し上司や取引先との会話を想定した聴くワークや効果的に伝える手法（PREP法）をマスターします。</p>	<p>6、安全衛生基本 安全・健康第一の意義や労働災害発生メカニズムを理解し、働きやすい職場環境を醸成するための自主的安全衛生活動を模擬実践頂きます。</p>	<p>7、組織力 組織の一員として、チームワークの重要性と組織と人間関係を理解し、チームビルディングを通じたチームワークを体験頂き、チームワークを機能させるポイントを学びます。</p>	<p>8、目標設定 研修からの学びを通じて、ご自身の1年後の目標（あるべき姿）を設定し、受講者全員の前でスピーチをしてもらいます。またフォローアップ研修では振り返りに活用いたします。</p>						
<p>受講対象者</p>	<p>新入社員</p>								
<p>受講前提</p>	<p>特になし</p>								
<p>研修方法</p>	<p>講義・ワークショップ</p>								
<p>期間</p>	<p>3日間</p>								
<p>研修終了後のスキル習得目標</p>	<p>学生から社会人へと意識をマインドセットし、仕事に対する前向きな姿勢と、基本行動を身に付けることを目標とします。</p>								

	<p>製造業若手社員研修</p>								
<p>コース概要</p>	<p>若手社員は職場の活性化にとって重要な役割を担い、会社の成長の源泉として戦力人材となってもらうことが重要です。そのため、若手を対象に、日常業務を振り返っての役割行動を再認識し、業務意欲向上を図ってまいります。また若手に求められるテーマ毎に学習することで、ご自身の強みとして知識を定着頂き、組織に貢献するために必要な考え方や価値観を身に付けて頂きます。</p> <p>* 知識定着と行動変容を促すためには、研修一定期間（半年から1年）後のフォローアップ研修をお勧めいたします。 * 各テーマ毎にグループワークを設定しております。自ら考え伝えあい、気づき合うことを通じて若手社員としての力量を養成します。</p> <table border="1" data-bbox="459 534 1926 979"> <tr> <td data-bbox="459 534 826 748"> <p>1、オリエンテーション 研修の概要説明後、コンセンサスゲームを実践します。会議や打合せで話し合い、意見を一致させることの重要性やそのプロセス方法を学び研修への自己参画を促します。</p> </td> <td data-bbox="826 534 1193 748"> <p>2、若手社員の役割行動 社会人基礎力セルフチェックシートでご自身の強みや弱みを把握した上で若手社員の役割を確認し、自らのミッションを策定します。</p> </td> <td data-bbox="1193 534 1560 748"> <p>3、業務の進め方 日業業務に欠かせないテーマとして「問題と課題」/「業務改善」/「タイムマネジメント」を学び、各種ワークで定着化を図ります。</p> </td> <td data-bbox="1560 534 1926 748"> <p>4、安全管理の基本 安全最優先の考え方から、基本的な法律知識や自主的安全活動の基本を理解し、各職場での不安全状態や不安全行動を撲滅するための考え方を学びます。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 748 826 979"> <p>5、コミュニケーション 職場での良好な人間関係を醸成するためのコミュニケーションの基本と、伝わる話し方を理解頂きます。特に聴くことの重要性を学びます。</p> </td> <td data-bbox="826 748 1193 979"> <p>6、後輩の育成指導 次に繋がる人材育成として、後輩指導のポイントを理解します。具体的に、褒めると叱る/年長者との接し方/効果的なOJTについて学びます。</p> </td> <td data-bbox="1193 748 1560 979"> <p>7、リーダーシップの発揮 リーダーシップを発揮するための要素を理解し、ご自身のリーダーシップスタイルについて考えます。また事例を活用し誰でも発揮することが可能であることを学びます。</p> </td> <td data-bbox="1560 748 1926 979"> <p>実践行動計画 若手研修を通じて、ご自身の1年後のあるべき姿を描いて頂き、目標に向かい具体的なプランを作成いたします。</p> </td> </tr> </table>	<p>1、オリエンテーション 研修の概要説明後、コンセンサスゲームを実践します。会議や打合せで話し合い、意見を一致させることの重要性やそのプロセス方法を学び研修への自己参画を促します。</p>	<p>2、若手社員の役割行動 社会人基礎力セルフチェックシートでご自身の強みや弱みを把握した上で若手社員の役割を確認し、自らのミッションを策定します。</p>	<p>3、業務の進め方 日業業務に欠かせないテーマとして「問題と課題」/「業務改善」/「タイムマネジメント」を学び、各種ワークで定着化を図ります。</p>	<p>4、安全管理の基本 安全最優先の考え方から、基本的な法律知識や自主的安全活動の基本を理解し、各職場での不安全状態や不安全行動を撲滅するための考え方を学びます。</p>	<p>5、コミュニケーション 職場での良好な人間関係を醸成するためのコミュニケーションの基本と、伝わる話し方を理解頂きます。特に聴くことの重要性を学びます。</p>	<p>6、後輩の育成指導 次に繋がる人材育成として、後輩指導のポイントを理解します。具体的に、褒めると叱る/年長者との接し方/効果的なOJTについて学びます。</p>	<p>7、リーダーシップの発揮 リーダーシップを発揮するための要素を理解し、ご自身のリーダーシップスタイルについて考えます。また事例を活用し誰でも発揮することが可能であることを学びます。</p>	<p>実践行動計画 若手研修を通じて、ご自身の1年後のあるべき姿を描いて頂き、目標に向かい具体的なプランを作成いたします。</p>
<p>1、オリエンテーション 研修の概要説明後、コンセンサスゲームを実践します。会議や打合せで話し合い、意見を一致させることの重要性やそのプロセス方法を学び研修への自己参画を促します。</p>	<p>2、若手社員の役割行動 社会人基礎力セルフチェックシートでご自身の強みや弱みを把握した上で若手社員の役割を確認し、自らのミッションを策定します。</p>	<p>3、業務の進め方 日業業務に欠かせないテーマとして「問題と課題」/「業務改善」/「タイムマネジメント」を学び、各種ワークで定着化を図ります。</p>	<p>4、安全管理の基本 安全最優先の考え方から、基本的な法律知識や自主的安全活動の基本を理解し、各職場での不安全状態や不安全行動を撲滅するための考え方を学びます。</p>						
<p>5、コミュニケーション 職場での良好な人間関係を醸成するためのコミュニケーションの基本と、伝わる話し方を理解頂きます。特に聴くことの重要性を学びます。</p>	<p>6、後輩の育成指導 次に繋がる人材育成として、後輩指導のポイントを理解します。具体的に、褒めると叱る/年長者との接し方/効果的なOJTについて学びます。</p>	<p>7、リーダーシップの発揮 リーダーシップを発揮するための要素を理解し、ご自身のリーダーシップスタイルについて考えます。また事例を活用し誰でも発揮することが可能であることを学びます。</p>	<p>実践行動計画 若手研修を通じて、ご自身の1年後のあるべき姿を描いて頂き、目標に向かい具体的なプランを作成いたします。</p>						
<p>受講対象者</p>	<p>若手社員（入社数年～班長）</p>								
<p>受講前提</p>	<p>特になし</p>								
<p>研修方法</p>	<p>講義・ワークショップ</p>								
<p>期間</p>	<p>2日間</p>								
<p>研修終了後のスキル習得目標</p>	<p>若手社員に求められる役割と行動を理解し、貴社の重要な戦力人材として、また職場活性化を担うことを目指します。</p>								

	製造業中堅社員研修											
コース概要	<p>中堅リーダーとしての立場と役割を認識し、期待されるリーダーを見据えて俯瞰した物事の見方を理解し、目線を個人から組織に広げて、部署全体・課全体の事を考え、部分最適から全体最適な考え方を学びます。また組織の目的・目標に向けたリーダーシップを発揮し組織を牽引したり後押しする重要性を理解し、組織に所属する働く人の全ての人々がリーダーシップを発揮できる環境を醸成することを理解頂きます。</p> <p>* 知識定着と行動変容を促すためには、研修一定期間（半年から1年）後のフォローアップ研修をお勧めいたします。 * 各テーマ毎にグループワークを設定しております。自ら考え伝えあい、気づき合うことを通じて中堅社員としての力を養成します。</p> <table border="1" data-bbox="476 549 1943 1001"> <tr> <td data-bbox="476 549 843 782"> <p>1, 中堅社員に求められる役割と意識</p> <p>受講者の皆さんに主体的に役割と意識を考えてもらいます。この役割を俯瞰的に考えることで管理職に向けて新たな役割を認識頂きます。</p> </td> <td data-bbox="843 549 1210 782"> <p>2, あなたのマネジメントをみつめる</p> <p>マネジメント上の問題点から討議によりマネジメントの本質を理解します。PDCAが着実にスパイラルアップすることの重要性を確認します。</p> </td> <td data-bbox="1210 549 1576 782"> <p>3, 業務の改革</p> <p>問題の棚卸をしてもらい、問題形成実施上のポイントを理解します。また問題意識が改善の出発点になり、さらにそこから具体的な改善活動の手法を学びます。</p> </td> <td data-bbox="1576 549 1943 782"> <p>4, 効果的タイムマネジメント</p> <p>タイムマネジメントの考え方（時は金なり）を理解し、日常業務を効率的且つ優先的に遂行する方法を学びます。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="476 782 843 1001"> <p>5, コミュニケーション</p> <p>聴くスキルを学び、ペアワークを通じて、聴くことの重要性を体感してもらいます。伝えるスキル（PREP法）や主張するスキル（DESC法）を学び実践に活かします。</p> </td> <td data-bbox="843 782 1210 1001"> <p>6, 人材育成</p> <p>部下育成の討議を通じて理想的・実務的な部下育成を考えてもらいます。また部下のモチベーション向上に役立つ手法を学びます。</p> </td> <td data-bbox="1210 782 1576 1001"> <p>7, パワハラ</p> <p>パワハラの類型を理解し、パワハラの実例を討議して、中堅社員として留意すべきことを整理いたします。また職場の心理的安全性向上に向けた要点も学びます。</p> </td> <td data-bbox="1576 782 1943 1001"> <p>8, 人間理解</p> <p>リーダーシップ理論からリーダーシップのスタイルを討議し、今後のご自身のスタイルに活用頂きます。またフォロワーシップがリーダーに欠かせないことを学びます。</p> </td> </tr> </table>				<p>1, 中堅社員に求められる役割と意識</p> <p>受講者の皆さんに主体的に役割と意識を考えてもらいます。この役割を俯瞰的に考えることで管理職に向けて新たな役割を認識頂きます。</p>	<p>2, あなたのマネジメントをみつめる</p> <p>マネジメント上の問題点から討議によりマネジメントの本質を理解します。PDCAが着実にスパイラルアップすることの重要性を確認します。</p>	<p>3, 業務の改革</p> <p>問題の棚卸をしてもらい、問題形成実施上のポイントを理解します。また問題意識が改善の出発点になり、さらにそこから具体的な改善活動の手法を学びます。</p>	<p>4, 効果的タイムマネジメント</p> <p>タイムマネジメントの考え方（時は金なり）を理解し、日常業務を効率的且つ優先的に遂行する方法を学びます。</p>	<p>5, コミュニケーション</p> <p>聴くスキルを学び、ペアワークを通じて、聴くことの重要性を体感してもらいます。伝えるスキル（PREP法）や主張するスキル（DESC法）を学び実践に活かします。</p>	<p>6, 人材育成</p> <p>部下育成の討議を通じて理想的・実務的な部下育成を考えてもらいます。また部下のモチベーション向上に役立つ手法を学びます。</p>	<p>7, パワハラ</p> <p>パワハラの類型を理解し、パワハラの実例を討議して、中堅社員として留意すべきことを整理いたします。また職場の心理的安全性向上に向けた要点も学びます。</p>	<p>8, 人間理解</p> <p>リーダーシップ理論からリーダーシップのスタイルを討議し、今後のご自身のスタイルに活用頂きます。またフォロワーシップがリーダーに欠かせないことを学びます。</p>
<p>1, 中堅社員に求められる役割と意識</p> <p>受講者の皆さんに主体的に役割と意識を考えてもらいます。この役割を俯瞰的に考えることで管理職に向けて新たな役割を認識頂きます。</p>	<p>2, あなたのマネジメントをみつめる</p> <p>マネジメント上の問題点から討議によりマネジメントの本質を理解します。PDCAが着実にスパイラルアップすることの重要性を確認します。</p>	<p>3, 業務の改革</p> <p>問題の棚卸をしてもらい、問題形成実施上のポイントを理解します。また問題意識が改善の出発点になり、さらにそこから具体的な改善活動の手法を学びます。</p>	<p>4, 効果的タイムマネジメント</p> <p>タイムマネジメントの考え方（時は金なり）を理解し、日常業務を効率的且つ優先的に遂行する方法を学びます。</p>									
<p>5, コミュニケーション</p> <p>聴くスキルを学び、ペアワークを通じて、聴くことの重要性を体感してもらいます。伝えるスキル（PREP法）や主張するスキル（DESC法）を学び実践に活かします。</p>	<p>6, 人材育成</p> <p>部下育成の討議を通じて理想的・実務的な部下育成を考えてもらいます。また部下のモチベーション向上に役立つ手法を学びます。</p>	<p>7, パワハラ</p> <p>パワハラの類型を理解し、パワハラの実例を討議して、中堅社員として留意すべきことを整理いたします。また職場の心理的安全性向上に向けた要点も学びます。</p>	<p>8, 人間理解</p> <p>リーダーシップ理論からリーダーシップのスタイルを討議し、今後のご自身のスタイルに活用頂きます。またフォロワーシップがリーダーに欠かせないことを学びます。</p>									
受講対象者	中堅社員（班長～工長・現場リーダー）											
受講前提	特になし											
研修方法	講義・ワークショップ											
期間	2日間											
研修終了後のスキル習得目標	中堅社員に求められる役割と行動を理解し、貴社の重要な戦力人材として、スキルや考え方の定着と実践力を養成します。											

	製造業管理職社員研修											
コース概要	<p>製造現場の生きた知見を基に、貴社管理職を対象に人を育成し、継続的に会社が成長する礎を築きます。具体的には、組織の視点からチーム全体の生産性を向上すること、現状に満足せず、常に自らの力を高め、改善・改革に取り組みが成長に寄与することを理解します。一方でリスクに対する未然防止や再発防止等の取組を通じた経営の基本管理も理解します。</p> <p>* 知識定着と行動変容を促すためには、研修一定期間（半年から1年）後のフォローアップ研修をお勧めいたします。</p> <p>* 各テーマ毎にグループワークを設定しております。自ら考え伝えあい、気づき合うことを通じて管理職としての力量を養成します。</p> <table border="1" data-bbox="462 489 1929 993"> <tr> <td data-bbox="462 489 828 751"> 1, 管理職としての役割理解 管理職と非管理職の違いを理解し、管理職として期待されている仕事ややりたい仕事を整理し、会社の期待と整合することで、ご自身の仕事の意義を確認してもらいます。 </td> <td data-bbox="828 489 1195 751"> 2, リーダーシップスタイル 古典的なリーダーシップと現在のリーダーシップを理解し、リーダーシップの討議の中から理想的なリーダーシップを考えてもらい、実践してもらいます。また部下がリーダーシップを発揮するための要点を理解します。 </td> <td data-bbox="1195 489 1562 751"> 3, 部下育成 部下がやる気を高める仕事の与え方や業績結果に対する効果的な褒め方や叱り方を学びます。さらに部下育成のためのOJTを実践してもらいます。 </td> <td data-bbox="1562 489 1929 751"> 4, リスクマネジメント リスク顕在時の管理者の心構えや初期対応を理解します。具体的なリスクとしてのコンプライアンス違反/ハラスメント/労働災害等を学び、未然防止のための手法を理解します。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="462 751 828 993"> 5, 会計基礎 財務会計と管理会計の違いを理解し、管理会計上有用な損益分岐点分析の基礎や予算実績管理を学びます。 </td> <td data-bbox="828 751 1195 993"> 6, コミュニケーション 聴くスキルを学び、ペアワークを通じて、聴くことの重要性を体感してもらいます。伝えるスキル（PREP法）や主張するスキル（DESC法）を学び実践に活かします。 </td> <td data-bbox="1195 751 1562 993"> 7, 改善活動 GC7つ道具・新QC7つ道具を活用し、QCストーリープロセスでの改善活動を理解し、自職場で改善活動を活性化するために、討議から整理してもらいます。 </td> <td data-bbox="1562 751 1929 993"> 8, マネジメントの基本 管理とマネジメントの違いを理解し、討議を通じてPDCAサイクルの重要性と、スパイラルアップするためのCA部分の強化を理解します。 </td> </tr> </table>				1, 管理職としての役割理解 管理職と非管理職の違いを理解し、管理職として期待されている仕事ややりたい仕事を整理し、会社の期待と整合することで、ご自身の仕事の意義を確認してもらいます。	2, リーダーシップスタイル 古典的なリーダーシップと現在のリーダーシップを理解し、リーダーシップの討議の中から理想的なリーダーシップを考えてもらい、実践してもらいます。また部下がリーダーシップを発揮するための要点を理解します。	3, 部下育成 部下がやる気を高める仕事の与え方や業績結果に対する効果的な褒め方や叱り方を学びます。さらに部下育成のためのOJTを実践してもらいます。	4, リスクマネジメント リスク顕在時の管理者の心構えや初期対応を理解します。具体的なリスクとしてのコンプライアンス違反/ハラスメント/労働災害等を学び、未然防止のための手法を理解します。	5, 会計基礎 財務会計と管理会計の違いを理解し、管理会計上有用な損益分岐点分析の基礎や予算実績管理を学びます。	6, コミュニケーション 聴くスキルを学び、ペアワークを通じて、聴くことの重要性を体感してもらいます。伝えるスキル（PREP法）や主張するスキル（DESC法）を学び実践に活かします。	7, 改善活動 GC7つ道具・新QC7つ道具を活用し、QCストーリープロセスでの改善活動を理解し、自職場で改善活動を活性化するために、討議から整理してもらいます。	8, マネジメントの基本 管理とマネジメントの違いを理解し、討議を通じてPDCAサイクルの重要性と、スパイラルアップするためのCA部分の強化を理解します。
1, 管理職としての役割理解 管理職と非管理職の違いを理解し、管理職として期待されている仕事ややりたい仕事を整理し、会社の期待と整合することで、ご自身の仕事の意義を確認してもらいます。	2, リーダーシップスタイル 古典的なリーダーシップと現在のリーダーシップを理解し、リーダーシップの討議の中から理想的なリーダーシップを考えてもらい、実践してもらいます。また部下がリーダーシップを発揮するための要点を理解します。	3, 部下育成 部下がやる気を高める仕事の与え方や業績結果に対する効果的な褒め方や叱り方を学びます。さらに部下育成のためのOJTを実践してもらいます。	4, リスクマネジメント リスク顕在時の管理者の心構えや初期対応を理解します。具体的なリスクとしてのコンプライアンス違反/ハラスメント/労働災害等を学び、未然防止のための手法を理解します。									
5, 会計基礎 財務会計と管理会計の違いを理解し、管理会計上有用な損益分岐点分析の基礎や予算実績管理を学びます。	6, コミュニケーション 聴くスキルを学び、ペアワークを通じて、聴くことの重要性を体感してもらいます。伝えるスキル（PREP法）や主張するスキル（DESC法）を学び実践に活かします。	7, 改善活動 GC7つ道具・新QC7つ道具を活用し、QCストーリープロセスでの改善活動を理解し、自職場で改善活動を活性化するために、討議から整理してもらいます。	8, マネジメントの基本 管理とマネジメントの違いを理解し、討議を通じてPDCAサイクルの重要性と、スパイラルアップするためのCA部分の強化を理解します。									
受講対象者	管理職社員（現場マネージャー～課長（課長候補含む））											
受講前提	管理職としての事前課題（仕事内容の棚卸）											
研修方法	講義・ワークショップ											
期間	2日間											
研修終了後のスキル習得目標	管理職社員に求められる役割と行動を理解し、貴社の理念・ビジョンの実現に向けて組織をマネジメントすることを理解します。											

	製造業新任取締役研修											
コース概要	<p> 新任取締役・執行役員・役員候補者を対象として、経営リーダーとしての資質・能力を習得し、自己変革を促し、戦略の策定と実行、意思決定の実践に役立てていただきます。経営に関するテーマを2日間で網羅的・体系的に学習する貴重な機会として位置付けており、次世代経営幹部の方に必須知識の習得や実践的に活かして頂くための特別なプログラムです。 </p> <p> ＊知識定着と行動変容を促すためには、研修一定期間（半年から1年）後のフォローアップ研修をお勧めいたします。 </p> <p> ＊各テーマ毎にグループワークを設定しております。自ら考え伝えあい、気づき合うことを通じて取締役としての力量を養成します。 </p> <table border="1" data-bbox="462 489 1929 968"> <tr> <td data-bbox="462 489 830 725"> 1, 取締役の心得・知識 会社法上の取締役の義務や訴訟リスク・取締役会の機能等の法務基礎を学びます。また取締役就任における課題や工夫を討議してもらいます。 </td> <td data-bbox="830 489 1195 725"> 2, 経営戦略論 経営戦略の役割と策定プロセスを理解し、内部・外部環境分析(SWOT)かや3C分析等から戦略を策定するプロセスを理解します。 </td> <td data-bbox="1195 489 1560 725"> 3, 人事・組織論 最近のトピックスから人的資本経営やダイバーシティ経営・働き方改革を整理し、最近の人事関連データから人事戦略上の課題や対応策を討議してもらいます。 </td> <td data-bbox="1560 489 1929 725"> 4, 財務会計論 企業価値向上施策として、会計基礎・財務分析・企業動向・開示動向を理解し、貸借対照表や損益計算書から読み解く力量を養成します。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="462 725 830 968"> 5, 新規事業策定・戦略実行 マーケティングを含め攻めの経営と守りの経営としての両利きの経営を理解し、新規事業開拓の必要性やDXへの取組のプロセスを学びます。 </td> <td data-bbox="830 725 1195 968"> 6, 環境構造とリスクマネジメント 環境変化とリスクの捉え方を学び、目的・目標に向けて将来予測からリスクを低減するリスクマネジメントを理解し、現在直面するリスク討議してもらいます。 </td> <td data-bbox="1195 725 1560 968"> 7, コンプライアンス 法令遵守・企業の社会的責任・企業倫理など内部統制の機能を理解し、企業内で発生するハラスメントを討議し留意すべき取締役の言動や行動を学びます。 </td> <td data-bbox="1560 725 1929 968"> 8, 取締役研修まとめ 研修を振り返り、取締役としての覚悟として実行内容をまとめてもらいます。 </td> </tr> </table>				1, 取締役の心得・知識 会社法上の取締役の義務や訴訟リスク・取締役会の機能等の法務基礎を学びます。また取締役就任における課題や工夫を討議してもらいます。	2, 経営戦略論 経営戦略の役割と策定プロセスを理解し、内部・外部環境分析(SWOT)かや3C分析等から戦略を策定するプロセスを理解します。	3, 人事・組織論 最近のトピックスから人的資本経営やダイバーシティ経営・働き方改革を整理し、最近の人事関連データから人事戦略上の課題や対応策を討議してもらいます。	4, 財務会計論 企業価値向上施策として、会計基礎・財務分析・企業動向・開示動向を理解し、貸借対照表や損益計算書から読み解く力量を養成します。	5, 新規事業策定・戦略実行 マーケティングを含め攻めの経営と守りの経営としての両利きの経営を理解し、新規事業開拓の必要性やDXへの取組のプロセスを学びます。	6, 環境構造とリスクマネジメント 環境変化とリスクの捉え方を学び、目的・目標に向けて将来予測からリスクを低減するリスクマネジメントを理解し、現在直面するリスク討議してもらいます。	7, コンプライアンス 法令遵守・企業の社会的責任・企業倫理など内部統制の機能を理解し、企業内で発生するハラスメントを討議し留意すべき取締役の言動や行動を学びます。	8, 取締役研修まとめ 研修を振り返り、取締役としての覚悟として実行内容をまとめてもらいます。
1, 取締役の心得・知識 会社法上の取締役の義務や訴訟リスク・取締役会の機能等の法務基礎を学びます。また取締役就任における課題や工夫を討議してもらいます。	2, 経営戦略論 経営戦略の役割と策定プロセスを理解し、内部・外部環境分析(SWOT)かや3C分析等から戦略を策定するプロセスを理解します。	3, 人事・組織論 最近のトピックスから人的資本経営やダイバーシティ経営・働き方改革を整理し、最近の人事関連データから人事戦略上の課題や対応策を討議してもらいます。	4, 財務会計論 企業価値向上施策として、会計基礎・財務分析・企業動向・開示動向を理解し、貸借対照表や損益計算書から読み解く力量を養成します。									
5, 新規事業策定・戦略実行 マーケティングを含め攻めの経営と守りの経営としての両利きの経営を理解し、新規事業開拓の必要性やDXへの取組のプロセスを学びます。	6, 環境構造とリスクマネジメント 環境変化とリスクの捉え方を学び、目的・目標に向けて将来予測からリスクを低減するリスクマネジメントを理解し、現在直面するリスク討議してもらいます。	7, コンプライアンス 法令遵守・企業の社会的責任・企業倫理など内部統制の機能を理解し、企業内で発生するハラスメントを討議し留意すべき取締役の言動や行動を学びます。	8, 取締役研修まとめ 研修を振り返り、取締役としての覚悟として実行内容をまとめてもらいます。									
受講対象者	新任取締役・執行役員～取締役従事者											
受講前提	特になし											
研修方法	講義・ワークショップ											
期間	2日間											
研修終了後のスキル習得目標	取締役に求められる役割と行動を理解し、貴社の理念・ビジョンの実現に向けて組織をマネジメントすることを理解します。											

業務知識

	製造業業務基礎研修
コース概要	<p>製造業向けソリューションを展開しているICT企業または製造業の新人を対象としたコースで、製造業の各業務をやさしく学び網羅性を持たせることにより、業界用語を交えて説明される話が理解でき、コミュニケーションが図れることで、お客様の要求を的確に把握できるようになることを目的としています。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;"> <p style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">1日目</p> <p>オープニング</p> <p>【第1部：製造業の概要】</p> <p>1章：製造業のビジネスモデル WS：自己紹介＋段階別製造業のWEB調査</p> <p>2章：製造業の生産形態 WS：在庫ポイント戦略別生産形態検討</p> <p>【第2部：製造業の業務】</p> <p>1章：ECMとSCM</p> <p>2章：ECMの業務 WS：部品表作成</p> <p>3章：SCMの業務 QZ：生販在計画、MRP Q&Aと理解度チェック</p> </div> <div style="width: 45%; padding-left: 10px;"> <p style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">2日目</p> <p>3章：SCMの業務（続：在庫管理）</p> <p>【第3部：工場マネジメント】</p> <p>1章：QCD管理</p> <p>2章：KPIとPDCA</p> <p>【第4部：工場運営ワークショップ】</p> <p>WS-1：ケース読み込みと需要予測・資材発注</p> <p>WS-2：生産数決定と作業スケジュール</p> <p>WS-3：採算計算と総括</p> <p>【第5部：製造業の課題】</p> <p>製造業の課題と解決の方向性 Q&A、理解度チェック、クロージング</p> </div> </div> </div>
受講対象者	製造業向けソリューションを展開しているICT企業、または製造業の新人（中途入社含む）
受講前提	特になし
研修方法	座学＋グループワーク
期間	2日
研修終了後のスキル習得目標	<p>①お客様が業界用語を交えて説明される話が理解でき、コミュニケーションがはかれる</p> <p>②お客様の要求を的確に把握できるようになる</p> <p>③従って業務要件の確定が早く正確になり、ERP、CRM、SCM構築・導入の上流工程の手戻りをなくすことを目的とするものであります。</p>

価値づくりのための生産入門 – Q・C・D 編 –

	価値づくりのための生産入門 – Q・C・D 編 –							
コース概要	<p>製造業の価値づくりに貢献できる人財の育成を狙いとして、製造業や工場の知識・経験が乏しい新入社員や異業種からの中途採用者を対象に、生産部門の果たす役割や生産のしくみについて、基本知識を習得いただきます。</p>							
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">日程</th> <th style="width: 45%;">講義内容</th> <th style="width: 15%;">日程</th> <th style="width: 25%;">講義内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">1日目</td> <td> オープニング 講義 1：企業の目的と手段 講義 2：生産部門の役割 演習 1：自社の目的と自部門の役割 講義 3：品質の意味を知ろう 講義 4：品質管理の考え方 講義 5：改善を実現するPDCA 演習 2：自部門における品質管理 </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">2日目</td> <td> 1日目のふり返り 講義 6：コストは限りある資源と考えよう 講義 7：コストにつながるムダとコスト低減の基本 演習 3：自部門におけるコスト管理 講義 8：納期を意識する 講義 9：納期管理の重要性 講義 10：納期を守るために必要なこと 演習 4：自部門における納期管理 クロージング </td> </tr> </tbody> </table>	日程	講義内容	日程	講義内容	1日目	オープニング 講義 1：企業の目的と手段 講義 2：生産部門の役割 演習 1：自社の目的と自部門の役割 講義 3：品質の意味を知ろう 講義 4：品質管理の考え方 講義 5：改善を実現するPDCA 演習 2：自部門における品質管理	2日目
日程	講義内容	日程	講義内容					
1日目	オープニング 講義 1：企業の目的と手段 講義 2：生産部門の役割 演習 1：自社の目的と自部門の役割 講義 3：品質の意味を知ろう 講義 4：品質管理の考え方 講義 5：改善を実現するPDCA 演習 2：自部門における品質管理	2日目	1日目のふり返り 講義 6：コストは限りある資源と考えよう 講義 7：コストにつながるムダとコスト低減の基本 演習 3：自部門におけるコスト管理 講義 8：納期を意識する 講義 9：納期管理の重要性 講義 10：納期を守るために必要なこと 演習 4：自部門における納期管理 クロージング					
受講対象者	製造業の新入・若手社員・異業種からの中途採用者							
受講前提	特になし							
研修方法	座学＋グループワーク							
期間	2日							
研修終了後のスキル習得目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業経営の目的・手段を体系的に整理し、生産部門の役割について理解いただきます。 ・生産の基本となる3つの視点 Q・C・D、即ち Q（品質:Quality）、C（コスト:Cost）、D（納期:Delivery）と、それらQ・C・Dを管理するしくみについて理解いただきます。 ・製造業で働きがいをもって働くために必要なことからについて理解いただきます。 							

価値づくりのための生産入門 – IE・QC・VE 編 –



	価値づくりのための生産入門 – IE・QC・VE 編 –																						
コース概要	製造業の価値づくりに貢献できる人財の育成を狙いとして、製造業や工場の知識・経験が乏しい新入社員や異業種からの中途採用者を対象に、ものづくりで大きな価値を生み出してきた管理技術 IE・QC・VE の基礎を学ぶことができる入門講座です。																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>講義内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">1日目</td> <td>オープニング</td> </tr> <tr> <td>講義 1 : 企業の目的と手段</td> </tr> <tr> <td>講義 2 : 企業が直面する問題と解決のプロセス</td> </tr> <tr> <td>演習 1 : 問題解決のプロセス</td> </tr> <tr> <td>講義 3 : 固有技術と管理技術</td> </tr> <tr> <td>講義 4 : 仕事のムダの改善と問題解決</td> </tr> <tr> <td>講義 5 : 現象追及型管理技術 IE とは</td> </tr> <tr> <td>演習 2 : IE 改善技法 – ムダの見える化 –</td> </tr> </tbody> </table>	日程	講義内容	1日目	オープニング	講義 1 : 企業の目的と手段	講義 2 : 企業が直面する問題と解決のプロセス	演習 1 : 問題解決のプロセス	講義 3 : 固有技術と管理技術	講義 4 : 仕事のムダの改善と問題解決	講義 5 : 現象追及型管理技術 IE とは	演習 2 : IE 改善技法 – ムダの見える化 –	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>講義内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">2日目</td> <td>1日目のふり取り</td> </tr> <tr> <td>講義 6 : 原因追及型管理技術QCとは</td> </tr> <tr> <td>講義 7 : 品質のバラツキと改善活動</td> </tr> <tr> <td>演習 3 : QC改善技法 – バラツキの見える化 –</td> </tr> <tr> <td>講義 8 : 目的思考型管理技術VEとは</td> </tr> <tr> <td>講義 9 : 価値向上の進め方</td> </tr> <tr> <td>演習 4 : VE改善技法 V価値=F機能/Cコスト</td> </tr> <tr> <td>演習 4 続き : VE改善技法 – 発表 – クロージング</td> </tr> </tbody> </table>	日程	講義内容	2日目	1日目のふり取り	講義 6 : 原因追及型管理技術QCとは	講義 7 : 品質のバラツキと改善活動	演習 3 : QC改善技法 – バラツキの見える化 –	講義 8 : 目的思考型管理技術VEとは	講義 9 : 価値向上の進め方	演習 4 : VE改善技法 V価値=F機能/Cコスト
日程	講義内容																						
1日目	オープニング																						
	講義 1 : 企業の目的と手段																						
	講義 2 : 企業が直面する問題と解決のプロセス																						
	演習 1 : 問題解決のプロセス																						
	講義 3 : 固有技術と管理技術																						
	講義 4 : 仕事のムダの改善と問題解決																						
	講義 5 : 現象追及型管理技術 IE とは																						
	演習 2 : IE 改善技法 – ムダの見える化 –																						
日程	講義内容																						
2日目	1日目のふり取り																						
	講義 6 : 原因追及型管理技術QCとは																						
	講義 7 : 品質のバラツキと改善活動																						
	演習 3 : QC改善技法 – バラツキの見える化 –																						
	講義 8 : 目的思考型管理技術VEとは																						
	講義 9 : 価値向上の進め方																						
	演習 4 : VE改善技法 V価値=F機能/Cコスト																						
	演習 4 続き : VE改善技法 – 発表 – クロージング																						
受講対象者	製造業の新入・若手社員・異業種からの中途採用者																						
受講前提	特になし																						
研修方法	座学 + グループワーク																						
期間	2日																						
研修終了後のスキル 習得目標	企業が直面する問題を整理し、問題を解決するための代表的管理技術 IE・QC・VE について学びます。																						

	品質管理研修【入門編】
コース概要	<p>品質とは何かから始まって、まずは品質の概念を学んで頂きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造業が顧客に提供する価値であるQCD について考えてもらい、その意味と重要性を理解して頂きます。 ・仕事/品質に対する意識を高めてもらうための内容を組み込みました。 ・メーカーで働く人必須の品質基礎知識を学んで頂きます。 ・加えて、4 M 管理とは何を学習して頂きます。 <p>ワークでは、社員同士で意見交換/議論するワークを多く取り入れており、聞くだけの研修ではなく自ら主体的に考え、また、他人の意見を聞き、いろいろな視点で考えることの大切さも学んで頂きます。</p> <div data-bbox="1183 439 1908 876" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; background-color: #008080; color: white; margin: 0;">AGENDA</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>1. 製造業・工場の仕組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 製造業とは 2) 日本の産業構造を支える製造業 3) 製造業が置かれている環境 4) 工場の仕組み <p>2. 品質の概念</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 品質とは何か 2) 設計品質・製造品質・使用品質 3) 品質とコスト 4) QCD 5) 品質管理とは 6) 品質管理のためのPDCA、QCストーリー <p>3. 仕事・品質に対する意識を高める</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 次工程はお客様の意味を理解する 2) 顧客クレームがもたらすもの 3) 自分の仕事の重要性 4) 事実には正面から向き合う 5) 3現主義（3現・3即・3徹） </div> <div style="width: 48%;"> <p>4. メーカーで働く人必須の品質基礎知識(1)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 安全管理 2) 5S 3) 識別管理 4) 不適合品管理 5) 標準化 <p>5. 必須知識(2)－4M管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 4Mとは 2) 4M管理の重要性 3) 4Mの内容 4) 日常管理 </div> </div> </div>
受講対象者	新入社員 ※製造現場・品管の社員だけでなく、営業・経理・人事など事務系社員も対象です。
受講前提	特に無し
研修方法	座学＋グループワーク
期間	1日
研修終了後のスキル習得目標	・品質管理の基礎知識習得

生産管理部門向け 生産管理基礎研修

	生産管理部門向け 生産管理基礎研修					
コース概要	<p>生産管理とは製品の生産に関するコスト（原価）、品質、納期に注目し、人、設備、材料を経済的、効率的に運用し、企業全体としての生産力を最大限に発揮させるための仕組みです。</p> <p>本研修では生産管理を分かりやすく、実践に即したプログラムで基本的な考え方や技法を体系的に学んでいただきます。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>1日目</th> <th>2, 3日目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 0. オリエンテーション 1. 生産管理の役割を考える 【演習①】「当社の機会損失の実態」 2. 生産管理を実行するための「原理原則」を学ぶ 【演習②】「当社の生産管理の仕事の定義」 【演習③】「当社の決定発生曲線上の管理技法の顕在化」 </td> <td> 2. 生産管理を実行するための「原理原則」を学ぶ 3. 生産管理の主な役割「生産方式」を学ぶ 4. 情報経営時代の生産管理システムを学ぶ 【演習④】「当社の情報システムの活用度と機会損失」 5. 総合演習 【演習⑤】「当社の生産管理の問題（機会損失）と対策方向」 </td> </tr> </tbody> </table>	1日目	2, 3日目	0. オリエンテーション 1. 生産管理の役割を考える 【演習①】「当社の機会損失の実態」 2. 生産管理を実行するための「原理原則」を学ぶ 【演習②】「当社の生産管理の仕事の定義」 【演習③】「当社の決定発生曲線上の管理技法の顕在化」	2. 生産管理を実行するための「原理原則」を学ぶ 3. 生産管理の主な役割「生産方式」を学ぶ 4. 情報経営時代の生産管理システムを学ぶ 【演習④】「当社の情報システムの活用度と機会損失」 5. 総合演習 【演習⑤】「当社の生産管理の問題（機会損失）と対策方向」
		1日目	2, 3日目			
0. オリエンテーション 1. 生産管理の役割を考える 【演習①】「当社の機会損失の実態」 2. 生産管理を実行するための「原理原則」を学ぶ 【演習②】「当社の生産管理の仕事の定義」 【演習③】「当社の決定発生曲線上の管理技法の顕在化」	2. 生産管理を実行するための「原理原則」を学ぶ 3. 生産管理の主な役割「生産方式」を学ぶ 4. 情報経営時代の生産管理システムを学ぶ 【演習④】「当社の情報システムの活用度と機会損失」 5. 総合演習 【演習⑤】「当社の生産管理の問題（機会損失）と対策方向」					
<p>受講対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造業の若手社員、中堅社員、管理職 ・生産管理を学び直したい方 						
<p>受講前提</p> <p>特に無し</p>						
<p>研修方法</p> <p>座学＋グループワーク</p>						
<p>期間</p> <p>2日</p>						
<p>研修終了後のスキル習得目標</p>	<p>生産活動を進めるうえで必要となる「生産管理の原理原則」や「生産方式の理解」、「付加価値生産性の向上策」について、演習を交えながら解説します。</p> <p>職場で即実践が可能な方策の解説により、利益を確保できる体質作りに役立ちます。</p>					

製造業業務プロセス研修（SCM研修）

	製造業業務プロセス研修（SCM）
コース概要	<p>製造業の業務プロセスを体系的に学ぶことにより、効率的な日常業務の推進、業務改革や情報システム構築を成功に導くための基礎知識を習得します。</p> <p>製造業のサプライチェーン（計画、調達、生産、販売）やBOMなどの基準情報に関する業務の基礎を学ぶことにより、</p> <p><製造業のお客様は></p> <ul style="list-style-type: none"> ①生産管理や製造部門が抱える問題や課題を正しく理解し ②改善活動（QCDの向上）に繋がられる若手人材の育成を目的としています。 <p><IT企業・コンサルティング企業のお客様は></p> <ul style="list-style-type: none"> ①お客様が業界用語を交えて説明される話が理解でき、円滑なコミュニケーションがはかれる ②お客様の要求を的確に把握できるようになる ③従って業務要件の確定が早く正確になりERP/PDM導入やSCM/PLM構築の上流工程の手戻りを無くすことを目的としています。
受講対象者	若手（基礎知識習得のため）、中堅（ご自身の知識の整理として）
受講前提	新人は書籍「工場のしくみ」を事前に読み込んでいただきます。
研修方法	座学＋グループワーク（eラーニングでも対応可能）
期間	2日
研修終了後のスキル習得目標	<p>製造業の業務の全体像を俯瞰できる人材育成を目指します。</p> <p>製造企業：生産管理や製造部門が抱える問題や課題を正しく理解し改善活動（QCDの向上）に繋がられる人材を育成します。</p> <p>ICT企業等：一般的な業界用語を理解でき、お客様とも円滑なコミュニケーションが図れます。</p>

<1日目>	<2日目>
1. 製造業業務プロセス概要	5. 購買管理
2. 基準情報管理	6. 在庫管理
3. 需要予測と生販在計画	7. 工程管理
4. MRPと製番管理	8. 原価管理
理解度テスト	理解度テスト

e-ラーニング 「製造業業務研修シリーズ」

	e-ラーニング「製造業業務研修シリーズ」
コース概要	<p>製造業における業務改革や情報システム構築の推進や成功に導くための業務の基礎知識を習得いたします。 (全14コース) 製造業のQ (品質管理)、C (原価管理)、D (生産管理、工程管理をベースとした納期管理) 全業務をカバーしており、サプライチェーンやエンジニアリングチェーンを体系的に理解できます。 業務に加えてIT化、IoTに対応した製造業の情報システムもカバーしています。</p> <ul style="list-style-type: none">各コースの章の最後の理解度テストとコースの最後に実力テストがあり、ご自身で当コースの理解度が確認できます。尚、誤解答の設問については納得行くまで何回でもさかのぼって受講することが可能です。管理者機能もあり、受講者の進捗状況や実力テストの点数などの確認も可能です。
受講対象者	若手 (基礎知識習得のため)、中堅 (ご自身の知識の整理として)
受講前提	製造業の業務を基本から学びたい方
研修方法	e-ラーニング
期間	1コース単位 : 8週間 (約2ヶ月間) 受け放題 (14コース) : 24週間 (約6ヶ月間)
研修終了後のスキル 習得目標	製造業における業務プロセスの全体像をイメージできる人材が育ちます。



eラーニング 製造業業務研修シリーズの全体構成



当シリーズは製造業務を基幹業務単位に分割して14コース（英語版はコース1～12）の構成にしています。

各コースは多国語に対応  日本語版  英語版 詳細ご案内：<https://waku-con.com/training/e-learning/>

<ul style="list-style-type: none">■ 製造業業務概要コース E01<ol style="list-style-type: none">1. いろいろな製造業2. 製造業の基本課題3. いろいろな生産形態4. 製造業の基幹業務■ 開発・設計コース E02<ol style="list-style-type: none">1. 開発・設計の位置付け2. 開発・設計業務3. 開発・設計の上流工程4. 開発・設計の目標と対応策5. 対応策の内容と要件■ 基準情報管理コース E03<ol style="list-style-type: none">1. 基準情報とは2. 部品表 (BOM)3. 品目マスター4. 製造工程表と設備台帳5. その他の基準情報■ 生販在計画コース E04<ol style="list-style-type: none">1. 生販在計画の位置付け2. 需要予測3. 販売計画4. 生販在計画 (PSI 計画)5. 生産計画と基準生産計画6. 生販在計画の機能	<ul style="list-style-type: none">■ MRPと製番管理コース E05<ol style="list-style-type: none">1. MRPの位置付け2. MRPとは3. MRP利用の業務領域4. MRPの主要項目5. MRPの計算手順6. MRPと製番管理■ 購買管理コース E06<ol style="list-style-type: none">1. 購買管理の位置付け2. 購買管理の役割3. 購買活動4. 購買活動を支える仕組み5. 購買関連の課題6. 購買管理の機能■ 工程管理コース E07<ol style="list-style-type: none">1. 工程管理の概要2. 製造指示と進捗管理3. かんばん方式4. 工程管理の機能■ 品質管理コース E08<ol style="list-style-type: none">1. 品質管理の位置付け2. 品質管理の基本3. 品質保証4. 品質改善活動5. 国際標準化機構	<ul style="list-style-type: none">■ 物流管理コース E09<ol style="list-style-type: none">1. 製造業における物流について2. 物流企画・物流設計3. 物流実務4. 物流技術・包装設計業務5. 物流システム開発■ 在庫管理コース E10<ol style="list-style-type: none">1. 在庫管理の位置付け2. 在庫管理とは3. 在庫精度向上活動4. 在庫目標の設定と削減活動5. 在庫管理の機能■ 原価管理コース E11<ol style="list-style-type: none">1. 原価管理の位置付け2. 製造原価の基本3. 原価管理4. 原価計算5. 原価計算の種類6. 原価差異分析7. 原価低減活動8. 製造原価の応用例9. 原価管理の機能	<ul style="list-style-type: none">■ 製造業の情報システムコース E12<ol style="list-style-type: none">1. 製造業の情報システム2. 発展の歴史3. 製造業の固有システム4. 製造業のIoTの動向と今後の方向■ プロセス型製造業の特徴コース E13<ol style="list-style-type: none">1. プロセス型製造業の概要2. プロセス型生産の特徴3. 設備保全と情報システム<p>※日本語版のみ対応</p>■ 保守サービスと保守部品管理コース E14<ol style="list-style-type: none">1. 保守サービスとは？2. 保守部品管理の仕組み3. 保守部品管理の課題と改善策4. 保守サービスのあり方と改善策<p>※日本語版のみ対応</p>
---	---	--	--

サプライチェーン（計画・調達・生産・販売物流）とエンジニアリングチェーン（開発設計業務）およびその接点である基準情報管理（品目マスター、BOM・配合表）、QCD（品質・コスト・納期）管理の全業務プロセスをカバーしています。

※各コースの最後には実力テストを用意しており80点を合格の目安としています。また特典としてテキストのダウンロードが可能です。



体系図に戻る▶

製造業業務プロセス研修（ECM研修 設計開発編）

	製造業業務プロセス研修（ECM研修 設計開発編）
コース概要	<p>◆概要 ものづくり企業のR&D部門の組織や役割、他部署との関係および具体的な開発業務で行っている内容を演習を交えて体験いたします。また、それらを基に設計情報を体系的に学び、最後にECMの事例を紹介いたします。</p> <p>◆狙い <製造企業の方々は> ・体系的にR&D部門の業務・プロセスを理解することで、自社のR&D部門の強みや弱みを理解し、業務改善に役立てる <ICT企業、コンサル企業の方々は> ・R&D業務・プロセスを理解し、R&D部門との会話の中で彼らの発言の意図や背景が分かるようにする（R&D部門の人たちと会話ができるようにする）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【1日目】</p> <p>オープニング</p> <p>講義1 ECMとは</p> <p>講義2 R&D部門の役割</p> <p>講義3 開発部門の業務①</p> <p>講義4 開発部門の業務②</p> <p>演習① なぜなぜ分析</p> <p>演習② リスクアセスメント</p> <p>クロージング（QA・まとめ etc）</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【2日目】</p> <p>前日の振り返り</p> <p>講義1 各フェーズの実施事項①</p> <p>講義2 各フェーズの実施事項②</p> <p>講義3 各フェーズの実施事項③</p> <p>演習① 概念設計・基本設計</p> <p>講義3 設計情報</p> <p>ディスカッション ※1</p> <p>例：設計管理に求められる要件とは</p> <p>クロージング（QA・まとめ etc）</p> </div>
受講対象者	<p><製造業企業> モノづくり企業のR&D部門以外の全社員、モノづくり企業のR&D部門の若手～中堅社員 <ICT企業、コンサル企業> モノづくり企業のR&D部門と仕事をする企業の全社員（IT企業の営業・SE、コンサルタント、AI系のスタートアップなど）</p>
受講前提	<ul style="list-style-type: none"> ・製造業業務プロセス研修またはeラーニング（製造業業務研修シリーズ）受講済みの方。 ・上記と同等の知識レベルを有する方。
研修方法	座学＋グループワーク
期間	2日
研修終了後のスキル習得目標	<p>体系的にR&D部門の業務・プロセスを理解し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造業は自社のR&D部門の強みや弱みを理解し、業務改善に役立てる ・ICT企業等はR&D部門との会話の中で彼らの発言の意図や背景が分かるようにする

製造業業務プロセス研修（ECM研修 生産部門編）

	製造業業務プロセス研修（ECM研修 生産部門編）			
コース概要	<p>◆概要 本研修では、ものづくりプロセスの全体像を示し、SCMとECMのカナメとなる生産部門の役割と生産のしくみについて学びます。生産部門は製品の生産性や品質向上を担い、競争力を維持・強化するための重要な役割を果たします。生産のしくみを理解することで、生産プロセスの改善や効率化に取り組むことが可能となり、企業の成長や持続可能な発展に貢献します。</p> <p>◆狙い ＜製造企業の方々は＞ 体系的に生産部門の業務・プロセスを理解することで業務改善に役立てる</p> <p>＜ICT企業、コンサル企業の方々は＞ 生産部門との会話の中で彼らの発言の意図や背景が分かるようになる （生産部門の人たちと会話ができるようになる）</p>	<table border="1"> <tr> <td> <p>【1日目】</p> <p>オープニング</p> <p>第一章 生産部門の役割</p> <p>第二章 生産管理</p> <p>第三章 原価管理</p> <p>演習 生産方式演習</p> </td> <td> <p>【2日目】</p> <p>第四章 品質管理</p> <p>第五章 作業改善</p> <p>第六章 生産改革</p> <p>クロージング</p> <p>（QA・まとめ etc）</p> </td> </tr> </table>	<p>【1日目】</p> <p>オープニング</p> <p>第一章 生産部門の役割</p> <p>第二章 生産管理</p> <p>第三章 原価管理</p> <p>演習 生産方式演習</p>	<p>【2日目】</p> <p>第四章 品質管理</p> <p>第五章 作業改善</p> <p>第六章 生産改革</p> <p>クロージング</p> <p>（QA・まとめ etc）</p>
<p>【1日目】</p> <p>オープニング</p> <p>第一章 生産部門の役割</p> <p>第二章 生産管理</p> <p>第三章 原価管理</p> <p>演習 生産方式演習</p>	<p>【2日目】</p> <p>第四章 品質管理</p> <p>第五章 作業改善</p> <p>第六章 生産改革</p> <p>クロージング</p> <p>（QA・まとめ etc）</p>			
受講対象者	<p>＜製造業企業＞ モノづくり企業の生産部門の新人、若手</p> <p>＜ICT企業、コンサル企業＞ モノづくり企業の生産部門と仕事をする企業の全社員（IT企業の営業・SE、コンサルタント、AI系のスタートアップ企業など）</p>			
受講前提	<ul style="list-style-type: none"> ・製造業業務プロセス研修またはeラーニング（製造業業務研修シリーズ）受講済みの方。 ・上記と同等の知識レベルを有する方。 			
研修方法	座学＋グループワーク			
期間	2日			
研修終了後のスキル習得目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生産部門の役割と生産のしくみ、原価低減の必要性、品質意識の向上、不良低減の方法、安全・環境管理等の知識を習得することで、製造部門が抱える問題や課題を正しく理解し改善活動（QCDの向上）に繋がられる人材を育成します。 			

	物流業務研修
コース概要	<p>当コースは物流業務（物流業の機能、販売物流、物流 I T、ロジスティクス・オペレーション、物流コスト、国際物流など）を基礎から体系的に、事例及びケーススタディを交えて学ぶコースです。</p> <div style="border: 2px solid green; padding: 5px;"> <p>【1日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 物流の基本機能 3. 販売物流 4. 基礎技術 5. 配送センターオペレーション 6. 物流サービス 7. 物流コスト <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 貿易 9. 輸出 10. 輸入 11. 国際物流 12. 用語解説 </div>
受講対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、流通業・卸・物流のお客様を持っている中堅、および若手社員（入社 2 年目～ 5 年目）営業職（営業・営業支援・提案企画）、S E 職（業務調査・外部設計）、運用サポート ・物流業務について知見・経験はあるが、体系的整理ができていない、もしくは抜け落ちている基礎的項目があると認識されている方。
受講前提	<ul style="list-style-type: none"> ・弊社研修「流通業業務プロセス研修」または「製造業業務プロセス研修」を受講した方々。 ・製造業及び流通業業務の基礎的な知識があり体系的に理解されている方。
研修方法	座学 + グループワーク
期間	2 日
研修終了後のスキル習得目標	<p>物流業務及び国際物流、業界の基礎知識を学ぶことにより</p> <ol style="list-style-type: none"> ①お客様が業界用語を交えて説明される話が理解でき、円滑なコミュニケーションがはかれる ②お客様の要求を的確に把握できるようになる ③従って業務要件の確定が早く正確になり、上流工程の手戻りをなくすことを目的としています。

自動車業界に特化した 国内の調達購買業務に関する研修

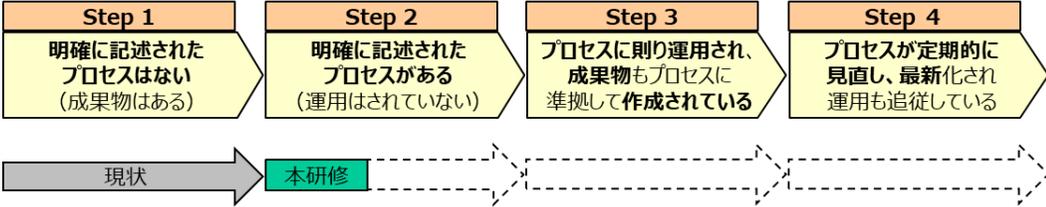
	<p>自動車業界に特化した 国内の調達購買業務に関する研修</p>		
<p>コース概要</p>	<p>◆概要 自動車業界は、電動化を契機に「擦合わせから組合わせへ」「垂直統合から水平分業へ」「ハードウェアからソフトウェアへ」という構造変化と競争激化の渦中にあります。その中で、調達購買部門はオペレーション業務の効率化とコストリダクション業務の深化を進めなければなりません。その為には、自社情報部門やICT企業と連携し、IT化を進めることが必須です。本講座は 購買システムの構築に関わる方々に必要、かつ、自動車メーカーに特化した調達購買業務の内容になっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①業務目的、業務概要、業務構造 ②業務フロー・内外関連先との関係 ③組織体制 ④オペレーション業務 ⑤コストリダクション業務 ⑥基本契約・購買関連法規 他 <p>の順で、2000年代に購買システムの大改訂を行ったゴーン日産時代の経験談も織込みながら、講義を進めます。</p>		
<p>受講対象者</p>	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><製造業></p> <ul style="list-style-type: none"> ①購買部門での実務経験 3 年以上の担当バイヤー及びリーダー層 ②購買実務経験ゼロの管理職、リーダー層 ③関連部門(設計・品管・生管等)のリーダー層 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><ICT企業></p> <p>購買システム構築に関わる方</p> </td> </tr> </table>	<p><製造業></p> <ul style="list-style-type: none"> ①購買部門での実務経験 3 年以上の担当バイヤー及びリーダー層 ②購買実務経験ゼロの管理職、リーダー層 ③関連部門(設計・品管・生管等)のリーダー層 	<p><ICT企業></p> <p>購買システム構築に関わる方</p>
<p><製造業></p> <ul style="list-style-type: none"> ①購買部門での実務経験 3 年以上の担当バイヤー及びリーダー層 ②購買実務経験ゼロの管理職、リーダー層 ③関連部門(設計・品管・生管等)のリーダー層 	<p><ICT企業></p> <p>購買システム構築に関わる方</p>		
<p>受講前提</p>	<p>調達購買業務への関心があること、学ぶ必要性があること</p>		
<p>研修方法</p>	<p>講義・ワークショップ</p>		
<p>期間</p>	<p>1 日</p>		
<p>研修終了後の スキル習得目標</p>	<p>調達購買業務の体系的内容の習得</p>		

海外との調達業務に関する研修

	海外との調達業務に関する研修	
コース概要	<p>◆概要 コロナ、ウクライナを契機に深まる「世界の分断(米vs.中・民主国家群vs.専制国家群)、インフレ、円安」という外部環境下での「グローバル最適調達のあり方」につき、その必要性和重要性を前提に、海外調達の実務論を展開します。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①購買方針の中で海外調達の目的・必要性・重要性、メリット・リスク・リスク軽減策を明確にする、 ②海外調達品目、国内調達品目を峻別した上で対象品目を絞り込み、選定する、 ③カテゴリー別発注方針を立てる、 ④候補サプライヤーを探索する、 ⑤サプライヤー能力評価・信用調査をする、 ⑥見積り展開・サンプル評価を行い、候補サプライヤーを選定、認定する、 ⑦基本契約を結ぶ、 ⑧海外調達の実例を通じて輸入実務プロセスを理解する、 <p>の順で講義します。購買業務全体の中での海外調達の位置づけ、海外調達とグローバルソーシングの違い、2000年代に本来のグローバル調達に舵を切ったゴーン日産時代の経験談も織り込みながら、講義を進めます。</p>	
受講対象者	<p><製造業></p> <ol style="list-style-type: none"> ①購買部門での実務経験3年以上の担当バイヤー及びリーダー層 ②購買実務経験ゼロの管理職、リーダー層 ③関連部門(設計・品管・生管等)のリーダー層 	<p><ICT企業></p> <p>購買システム構築に関わる方</p>
受講前提	海外調達業務への関心があること、学ぶ必要性があること	
研修方法	講義・ワークショップ	
期間	1日	
研修終了後のスキル習得目標	海外調達の必要性・重要性・プロセスの修得	

	サービスサイエンス研修			
<p>コース概要</p>	<p>いまや全ての産業においてサービスは競争優位そのものだと考えなければならない時代になりました。しかし企業におけるサービス開発・設計やCS向上活動は、勘や経験に頼っている部分が多く、どの企業でも実践できる理論として確立されていないのが現状です。そこで、論理的かつ実践的な方法として、サービスサイエンスが注目されており、企業変革の新たな方法論として成果を出しています。このコースでは、サービスの本質を理解した上で、演習を通してサービス改革の手法を実践し、自社のサービス設計やCS向上活動で活躍できる人材を育成します。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><カリキュラム></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>1. サービスサイエンスへの誘い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての産業で進むサービス化 ・サービスで満足して頂くには <p>2. サービスを科学する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービスを分類・分解・モデル化する ・サービスを定義する </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>3. 顧客満足(CS)を科学する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客満足を定義する ・顧客満足の仕組みを理解する <p>4. CS向上の努力のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CS向上の考え方 ・リピートオーダーを得るには </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>【演習】</p> <p>自社のサービスを分析する</p> <p>自社サービスの努力のポイントは何か？</p> <p>顧客満足を得るサービスを設計する</p> </td> </tr> </table></div>	<p>1. サービスサイエンスへの誘い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての産業で進むサービス化 ・サービスで満足して頂くには <p>2. サービスを科学する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービスを分類・分解・モデル化する ・サービスを定義する 	<p>3. 顧客満足(CS)を科学する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客満足を定義する ・顧客満足の仕組みを理解する <p>4. CS向上の努力のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CS向上の考え方 ・リピートオーダーを得るには 	<p>【演習】</p> <p>自社のサービスを分析する</p> <p>自社サービスの努力のポイントは何か？</p> <p>顧客満足を得るサービスを設計する</p>
<p>1. サービスサイエンスへの誘い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての産業で進むサービス化 ・サービスで満足して頂くには <p>2. サービスを科学する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービスを分類・分解・モデル化する ・サービスを定義する 	<p>3. 顧客満足(CS)を科学する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客満足を定義する ・顧客満足の仕組みを理解する <p>4. CS向上の努力のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CS向上の考え方 ・リピートオーダーを得るには 	<p>【演習】</p> <p>自社のサービスを分析する</p> <p>自社サービスの努力のポイントは何か？</p> <p>顧客満足を得るサービスを設計する</p>		
<p>受講対象者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客接点での業務の担当者 (営業部門、サービス提供部門、コンタクトセンター部門、代理店管理部門など) ・サービス開発・改善業務の担当者 (サービス開発・改革部門、CS調査部門、教育部門など) <p>* 実務経験年数は問いません。</p>			
<p>受講前提</p>	<p>特になし</p>			
<p>研修方法</p>	<p>講義・ワークショップ</p>			
<p>期間</p>	<p>1日</p>			
<p>研修終了後の スキル習得目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの本質を理解し、サービスを論理的に議論できるようになる。 ・サービスでお客様に満足して頂くために、実務として何を努力すべきか明確にイメージできる。 ・現場を巻き込むための「納得感」のあるサービス開発やCS向上活動を設計できる。 			

	商品開発マネジメント研修
<p>コース概要</p>	<p>「商品開発マネジメント」のコンセプト、商品開発マネジメントの実プロセスを理解し、その実施手順を身に付けます。</p> <p>商品開発マネジメントプロセスで使用する分析手法やツール類も理解できます。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>オープニング</p> <p>講義 1： 開発マネジメントプロセス導入の背景</p> <p>講義 2： 開発マネジメントプロセスのコンセプトと期待効果</p> <p>講義 2： 開発マネジメントプロセス・キーポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ①組織横断チーム ②商品戦略・企画プロセス ③開発プロセス ④フェーズ・レビュー（フェーズ移行管理） ⑤技術マネジメント ⑥手法とツール ⑦プロジェクト <p>講義 3： Fit & Gap</p> <p>講義 4： まとめ</p> <p>クロージング（全体討議）</p> </div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>演習 1： 自社プロセス現状とのFit&Gap</p> <p>7つのキーポイントについてのFit & Gap分析を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ①組織横断チーム ②商品戦略・企画プロセス ③開発プロセス ④フェーズ・レビュー（フェーズ移行管理） ⑤技術マネジメント ⑥手法とツール ⑦プロジェクト </div>
<p>受講対象者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商品開発部門の上位マネジメント ・商品開発のプロセス構築責任者 ・商品開発業務の改革・改善・効率化に携わる方
<p>受講前提</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・（自社）開発マネジメントの体系の知識がある ・（自社）開発分野の問題・課題の知識がある ・プロジェクト管理の基礎知識がある
<p>研修方法</p>	<p>座学 + 演習</p>
<p>期間</p>	<p>1日</p>
<p>研修終了後のスキル習得目標</p>	<p>商品企画プロセスフローを理解し、その実施手順を身に付け、商品企画プロセスで使用する分析手法や分析ツールを学び、実践に役立つ知識、スキルを身に付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、開発マネジメント改革に着手できていない場合の改革スタートの切り口となります。 ・開発マネジメントの7つの切り口の中から、自社の問題・課題の解決に必要な要素を抜き出して自社の開発マネジメントプロセス改革にテラリングするためのコンセプトを提供いたします。

	商品企画プロセス研修	
<p>コース概要</p>	<p>『商品企画プロセス』とは何かを概要レベルで理解いたします。</p> <p>商品企画プロセスフローを理解し、その実施手順を身に着け、商品企画プロセスで使用する分析手法や分析ツールを理解し実践で役立てることを目指しています。</p> 	<p>オープニング</p> <p>講義 1 : 商品企画プロセスとは</p> <p>講義 2 : 商品企画プロセス概要と6つのフェーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①市場の理解 含む：SWOT分析演習 ②セグメンテーション 含む：セグメンテーション演習 ③ポートフォリオ分析 含む：ポートフォリオ分析演習 ④中長期事業計画策定 ⑤リソース最適化 ⑥実績評価 <p>講義 4 : まとめ</p> <p>クロージング・セッション (全体討議)</p>
<p>受講対象者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商品企画に関する上位マネジメント ・商品戦略、商品企画の立案者 ・商品企画業務に携わる方 	
<p>受講前提</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「開発マネジメントコース」を受講している ・中長期事業計画作成の実務経験がある ・商品企画業務の実務経験がある 	
<p>研修方法</p>	<p>座学 + 演習</p>	
<p>期間</p>	<p>1日</p>	
<p>研修終了後のスキル習得目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『商品企画プロセス』とは何かを概要レベルで理解する ・商品企画プロセスフローを理解し、その実施手順を身に着ける ・商品企画プロセスで使用する分析手法や分析ツールを理解する 	

	グローバル生販在計画とS&OP研修 1日目
コース概要	<p>生販在計画はSCMの出発点であり、生販在計画の良し悪しが企業の収益性を大きく左右します。更には、それがグローバルな生販在計画となると、その影響は世界中の拠点にまで及ぶことになり、精度の低さは失注（売上減）、欠品、納期遵守率低下、顧客満足度低下、在庫増、無駄の増加、生産性低下、コストアップ等、様々な問題を引き起こします。本講座では、生販在計画の重要性とその仕組み、及び昨今急激に注目を集めているS&OPや改革ポイントについて、グローバルな視点を交えながら学びます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>1. 生販在計画の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生販在計画の定義と重要性 ・生販在計画の位置づけ ・生販在計画 </div> <div style="width: 45%;"> <p>2. 生販在計画の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生販在計画（続き） ・グローバル生販在計画の発展系(S&OP)とは ・改革事例 ・グループ演習 </div> </div>
受講対象者	<p>製造業：入社2年目以降の情報システム部門・ユーザー部門でSCMに関わる方 IT企業：入社5年目以降の営業、SE、システムコンサルタント</p>
受講前提	<p>製造業業務プロセス研修受講者、 または 製造業の業務全般（生産管理、工程管理、購買管理など）の基礎を理解している方</p>
研修方法	座学＋グループワーク
期間	1日
研修終了後のスキル 習得目標	生販在計画の重要性とその仕組みや改革ポイントを理解し、客先の課題に提言できます。

	在庫管理と在庫削減研修 2日目
コース概要	<p>在庫削減は製造業の定常的な課題であり、その解決のためには在庫に関する正確な知識が不可欠です。在庫の持ち過ぎは、資金繰りを悪化させ、コスト増につながり利益率を落とします。本講座では、企業のキャッシュフローを大きく左右する在庫管理の仕組みや在庫削減の進め方を、ケーススタディを通して体験的に学ぶとともに、在庫削減の課題やポイントについても習得します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 在庫管理の概要 2. 在庫管理のポイント 3. 在庫削減のポイント (ABC分析演習含む) 4. グループ演習 I 5. グループ演習 II (ケーススタディ) 6. まとめ
受講対象者	<p>製造業：入社2年目以降の情報システム部門・ユーザー部門でSCMに関わる方 IT企業：入社5年目以降の営業、SE、システムコンサルタント</p>
受講前提	製造業業務プロセス研修受講者、グローバル生販在計画とS&OP研修受講者
研修方法	座学＋グループワーク
期間	1日
研修終了後のスキル 習得目標	<p>在庫管理の仕組みや在庫削減の進め方を習得します。 顧客（自社）へ在庫削減の課題点や改善提案など提言できる。</p>

グローバルSCM研修 リードタイム短縮の進め方



	リードタイム短縮の進め方 3日目
コース概要	<p>製造業は、需要の変動に機敏に対応できる態勢を整える必要に迫られています。それにより、変動の激しい顧客の要求に対応してビジネスを確保すると共に、需要に合わないモノを造るムダを省いて利益率を向上させることができます。リードタイムの短縮は、そのような仕組みを築くための重要なキーとなります。本講座では、エンジニアリング チェーンとグローバルなサプライチェーンの両方からリードタイムの構成要素を理解し、どのようにそれを短縮できるかを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none">1. SCMの考え方<ul style="list-style-type: none">・SCMとは・生産のおおまかな仕組み2. サプライチェーンリードタイム短縮<ul style="list-style-type: none">・業務スピード改革の意義と考え方・サプライチェーンのリードタイム短縮・計画リードタイム・調達リードタイム・製造リードタイム3. エンジニアリング チェーン リードタイム短縮<ul style="list-style-type: none">・開発リードタイム4. グローバルSCMのリードタイム短縮とまとめ<ul style="list-style-type: none">・日本企業の課題： グローバルSCM・まとめ： リードタイム短縮の効果（演習）
受講対象者	製造業：入社2年目以降の情報システム部門・ユーザー部門でSCMに関わる方 IT企業：入社5年目以降の営業、SE、システムコンサルタント
受講前提	製造業業務プロセス研修受講者、グローバル生販在計画とS&OP受講者、在庫管理と在庫削減研修受講者
研修方法	座学＋グループワーク
期間	1日
研修終了後のスキル習得目標	各リードタイム短縮方法を習得し、顧客（自社）に対し課題や改善提案など提言できる。

現場改善スキル

	<h2>未然防止セミナー『品質トラブル・事故ゼロの実現』 ～再発防止だけでは不十分、リスクの気付きで未然防止～</h2>							
<p>コース概要</p>	<p>私たちの周りでは、さまざまなトラブルや事故が起こっています。そのたびに再発防止が叫ばれていますが、再発は一向に止まりません。</p> <p>それは、「未然防止」ができていないからです。本セミナーでは、トラブル・事故発生時の緊急対応、再発防止での根本原因の究明、そして未然防止におけるリスクの気付きを通して、業務上のトラブルゼロを実現する方法についてお伝えします。</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1143 372 1452 486"> 1.業務上のトラブル・不祥事・事故の現状 (1) 業務上のトラブルとは (2) 事故の現状 (3) なぜ、すべてのトラブル・事故の未然防止が可能か </td> <td data-bbox="1452 372 1924 568"> 5.未然防止の留意点 (1) 現場の無理を見逃すな (2) リスクに気づく習慣は日ごろの訓練から (3) プロジェクトマネジメントは最強の未然防止ツール (4) 業務マニュアルの作成方法 (5) 失敗学を活用した将来リスクに気付くワザ (6) コミュニケーションミスによるトラブル防止 (7) 「結果良ければすべてよし」の間違い (8) 鳥の目、蟻の目、第三者の目（業務執行と監査の分離） </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1143 501 1452 629"> 2.なぜトラブル・事故が起こるか 原因は人間のミス（ヒューマンエラー） (1) ミスを誘発する人間の習性と脳のクセ (2) ミスの4つのパターン (3) ミスする人間の行動心理 (4) ミスはなくせるか </td> <td data-bbox="1452 586 1924 782"> 6.未然防止のPDCAサイクルの回し方 7.未然防止の目標設定とプロセス評価 8.未然防止で働き方改革（生産性向上と残業削減） 9.失敗事例と成功事例からの学び方 10.グループ討議による事例演習（未然防止3ステップの体験） </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1143 648 1452 782"> 3.未然防止の概要 4.未然防止3ステップ対策 4-1. 第1ステップ：緊急対応 4-2. 第2ステップ：再発防止 4-3. 第3ステップ：未然防止 </td> <td></td> </tr> </table>	1.業務上のトラブル・不祥事・事故の現状 (1) 業務上のトラブルとは (2) 事故の現状 (3) なぜ、すべてのトラブル・事故の未然防止が可能か	5.未然防止の留意点 (1) 現場の無理を見逃すな (2) リスクに気づく習慣は日ごろの訓練から (3) プロジェクトマネジメントは最強の未然防止ツール (4) 業務マニュアルの作成方法 (5) 失敗学を活用した将来リスクに気付くワザ (6) コミュニケーションミスによるトラブル防止 (7) 「結果良ければすべてよし」の間違い (8) 鳥の目、蟻の目、第三者の目（業務執行と監査の分離）	2.なぜトラブル・事故が起こるか 原因は人間のミス（ヒューマンエラー） (1) ミスを誘発する人間の習性と脳のクセ (2) ミスの4つのパターン (3) ミスする人間の行動心理 (4) ミスはなくせるか	6.未然防止のPDCAサイクルの回し方 7.未然防止の目標設定とプロセス評価 8.未然防止で働き方改革（生産性向上と残業削減） 9.失敗事例と成功事例からの学び方 10.グループ討議による事例演習（未然防止3ステップの体験）	3.未然防止の概要 4.未然防止3ステップ対策 4-1. 第1ステップ：緊急対応 4-2. 第2ステップ：再発防止 4-3. 第3ステップ：未然防止	
1.業務上のトラブル・不祥事・事故の現状 (1) 業務上のトラブルとは (2) 事故の現状 (3) なぜ、すべてのトラブル・事故の未然防止が可能か	5.未然防止の留意点 (1) 現場の無理を見逃すな (2) リスクに気づく習慣は日ごろの訓練から (3) プロジェクトマネジメントは最強の未然防止ツール (4) 業務マニュアルの作成方法 (5) 失敗学を活用した将来リスクに気付くワザ (6) コミュニケーションミスによるトラブル防止 (7) 「結果良ければすべてよし」の間違い (8) 鳥の目、蟻の目、第三者の目（業務執行と監査の分離）							
2.なぜトラブル・事故が起こるか 原因は人間のミス（ヒューマンエラー） (1) ミスを誘発する人間の習性と脳のクセ (2) ミスの4つのパターン (3) ミスする人間の行動心理 (4) ミスはなくせるか	6.未然防止のPDCAサイクルの回し方 7.未然防止の目標設定とプロセス評価 8.未然防止で働き方改革（生産性向上と残業削減） 9.失敗事例と成功事例からの学び方 10.グループ討議による事例演習（未然防止3ステップの体験）							
3.未然防止の概要 4.未然防止3ステップ対策 4-1. 第1ステップ：緊急対応 4-2. 第2ステップ：再発防止 4-3. 第3ステップ：未然防止								
<p>受講対象者</p>	<p>・業種を問わず、全部門が対象で実務を管理されている方。 （対象：部長、課長、リーダー、主任クラス）</p>							
<p>受講前提</p>	<p>特になし</p>							
<p>研修方法</p>	<p>座学＋グループワーク</p>							
<p>期間</p>	<p>1日</p>							
<p>研修終了後のスキル習得目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☑ トラブルを起こさないコミュニケーションが身に付きます。 ☑ トラブルの根本原因を追究する手法が学べます。 ☑ 問題を解決する人材を育成できます。 ☑ トラブル処理がなくなり、残業削減で働き方改革が実現します。 ☑ トラブルのない組織を構築できます。 							

写真事例で学ぶ、製造現場の“問題発見・着眼力”向上研修

	<h2>写真事例で学ぶ、製造現場の“問題発見・着眼力”向上研修</h2>
<p>コース概要</p>	<p>現場の問題を捉えるための眼を養う！</p> <p>日常現場や製造現場で起きる問題の発見と着眼力を高め、不良やトラブルの早期解決、未然防止や生産性向上に役立つ内容を理解し、効果的な現場改善ができるように現場の問題を捉える“眼”を養います</p> <p>現場改善・生産性向上活動に取り組む管理者と実践担当者のための“問題を問題として認識する能力”を身に付ける研修です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="background-color: #e0ffe0; padding: 5px; width: 45%;"> <p>〈演習ポイント1〉: 全50事例に潜む問題点の発見により、問題発見視点・能力を養う！</p> <p>〈演習ポイント2〉: 相互プレゼン・意見交換を通じ、他者の問題認識を理解し、問題意識の向上を行う</p> </div> <div style="background-color: #e0ffe0; padding: 5px; width: 45%;"> <p>(1) グループ演習</p> <ol style="list-style-type: none"> ①全50事例の写真を観察 ②その中で問題点を捉える ③問題と捉えた理由を明確化 ④問題をグループ内での共有 ⑤解決の方向性を考察 ⑥解決の効果を予測 <p>(2) 相互プレゼン</p> <ol style="list-style-type: none"> ①グループ演習の内容紹介 ②『対話』による相互意見交換 ③気づきの整理 </div> </div>
<p>受講対象者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 製造現場で起きる問題の発見、着眼力を高め、不良やトラブルの早期解決や生産性向上に役立てたい 管理監督者・中堅社員の方々 ● 問題を認識することが苦手な方 ● 問題視できる直観力を向上したい方 ● 小さな変化に気がつく人材になりたい方 ● 問題点を他者に説明するトレーニングをしたい方
<p>受講前提</p>	<p>特になし</p>
<p>研修方法</p>	<p>座学＋グループワーク</p>
<p>期間</p>	<p>1日</p>
<p>研修終了後のスキル 習得目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 問題発見する演習を通じて、問題の発見力・着眼力を養う ② 問題の早期発見できる力と解決力を高める ③ 効果的な現場改善活動の進め方

	<h2>モノづくりコストマネジメント研修</h2>
<p>コース概要</p>	<p>モノづくり企業がモノづくりに費やすコスト対象の構造を、「直接モノづくりに係るコスト」や「間接的コストとして捉えざるを得ない組織形態も含めた捉え方」、さらには、それらのモノづくりコストを「お客様からコスト回収する方法」、あるいは、マーケット・インに求められるターゲット・コストングを実現させるための「コスト改善の観点視点の見方・考え方・進め方」を学習します。モノづくりのコスト競争力を向上させたいとお考えの皆様には、有益な研修内容です。</p> <div style="background-color: #e0ffe0; padding: 10px;"> <p>オープニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 挨拶・研修の狙い 2) 【オープニングテスト】 <p>1. モノづくり製造業での、コスト・マネジメント活動の重要性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 売上高に占めるコストウェイト 2) コストマネジメント巧拙による利益貢献度 3) コスト・デザインが求められるマーケット・イン時代 <p>-----<休憩>-----</p> <p>2. モノづくり製造業での、コスト・マネジメント活動に取り組む考え方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コスト・マネジメントに有益な管理会計 2) 上流部門：営業・開発・設計段階での、コスト未然防止活動 3) 中流部門：生産技術・生産管理段階での、コスト適正化活動 4) 下流部門：調達・製造組立検査段階での、コスト改善活動 5) 【理解度チェック】 <p>-----<休憩>-----</p> <p>3. モノづくり製造業での、コスト・マネジメント活動の観点・視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 材料コストに関する、コスト改善の観点・視点 2) 調達コストに関する、コスト改善の観点・視点 3) 加工コストに関する、コスト改善の観点・視点 <p>-----<休憩>-----</p> <ol style="list-style-type: none"> 4) 管理コストに関する、コスト改善の観点・視点 5) 【チェック】……『モノづくりコスト算出』 <p>-----<休憩>-----</p> <p>4. モノづくり製造業での、コスト・マネジメント活動の推進体制</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 推進体制組織 2) 「設計～調達～製造」コストマネジメント技法 3) 短期、中長期の実践アクションプラン <p>クロージング（質疑応答・全体討議）</p> </div>
<p>受講対象者</p>	<p>コストマネジメント担当者（リーダー、実務者） （原価企画、開発設計、生産技術、資材調達購買、製造 等の各部門）</p>
<p>受講前提</p>	<p>特になし</p>
<p>研修方法</p>	<p>座学＋グループワーク</p>
<p>期間</p>	<p>1日</p>
<p>研修終了後のスキル 習得目標</p>	<p>①モノづくりで発生したコストをお客様から売価回収する考え方・手法を知ることが出来る。 ②モノづくりコスト水準を向上するための、コスト改善の観点視点理解でき、コスト改善を推進させることが出来る。</p>

トップエンジニアが実践する“成功につながる”ロジカル問題解決メソッド



	トップエンジニアが実践する“成功につながる”ロジカル問題解決メソッド
コース概要	<p>企業が直面する課題の多くは、単なるトラブル対応や不具合の解消にとどまらず、「より良い製品やプロセスを実現するために、何を解決し、どのように成果を生み出すか」という視点が求められます。特に若手エンジニアにとっては、「問題を正しく発見し、適切に解決する力」が必須のスキルです。しかし、それだけでは不十分であり、将来的には「目標達成のための課題を設定し、戦略的に解決へ導く力」を養うことが重要になります。</p> <p>本セミナーでは、「問題」と「課題」の違いを理解し、現場での問題発見と解決に必要な着眼点を学びます。さらに、問題解決だけでなく「成功に向けた課題設定と達成」に必要な思考法とフレームワークを習得します。また、IE（インダストリアル・エンジニアリング）、QC（品質管理）、VE（価値工学）といった管理技術に加え、TRIZ（発明的問題解決理論）やデザイン思考を活用し、ロジカルかつ創造的に課題へアプローチする力を養います。後半では、実践的なワークショップを通じて、課題設定から行動計画の作成までを体験し、学んだ内容を業務にすぐ活かせるスキルとして定着させます。</p>
受講対象者	<ol style="list-style-type: none">1.若手エンジニア（入社3～10年目）<ul style="list-style-type: none">・業務の中で課題を感じているが、どのように解決すればよいか悩んでいる方・問題を解決するだけでなく、「成功に向けた課題達成」の考え方も学びたい方2.技術系リーダー候補・中堅エンジニア<ul style="list-style-type: none">・チームの課題を整理し、適切な解決策を導き出す力を高めたい方・若手エンジニアを指導する立場になり、問題解決のフレームワークを学びたい方
受講前提	事前課題として、解決したい問題について記入する簡単なシートがあります。
研修方法	座学＋グループワーク
期間	1日
研修終了後のスキル 習得目標	<ol style="list-style-type: none">①「問題」と「課題」の違いを理解し、現場での問題発見と解決に必要な着眼点を理解する。②「成功に向けた課題設定と達成」に必要な思考法とフレームワークを習得します③TRIZ（発明的問題解決理論）やデザイン思考を活用し、ロジカルかつ創造的に課題へアプローチする力を養います

	<p>製造業幹部・工場長・工場管理者育成研修</p>								
<p>コース概要</p>	<p>本研修は材料・素材の調達から始まり、製造、製品倉入れ、出荷に至るまでの日常の生産活動の重要管理項目はもとより、製造原価と損益、内製・外作の判断、利益とキャッシュフローとの関係、設備投資の意思決定、赤字製品や黒字製品への対応、工場変動要因への対処方法など、原価管理・管理会計やファイナンスの知識を活用した課題解決方法の学習に及びます。また、理解を確実にするため、研修内容には実課題に対する演習を組み込んでおります。</p> <table border="1" data-bbox="430 468 1935 953"> <tr> <td data-bbox="430 468 810 715"> <p>1. 現場のムダの発見と排除</p> <p>製造現場には多くのムダがあります。何がムダか、何故ムダか、ムダをどのように排除するのか、素材・原材料調達から始まり、素材・原材料受入れ、素材・原材料倉庫格納、払出、加工、プロセス、検査、梱包、出荷、物流に至るまで工場全体のムダの認識とムダ排除の方法を学びます。</p> </td> <td data-bbox="810 468 1189 715"> <p>2. 管理のムダ</p> <p>企業活動には多くのムダがあります。これらのムダは製造現場の改善だけでは解決しないものが多いです。</p> <p>企業活動を営業部門の引き合いから始まり、PSI、生産管理、生産活動(調達・製造・製品倉入れ・出荷)、販売に至るまでを対象とし、管理者が解決すべき課題を学びます。</p> </td> <td data-bbox="1189 468 1545 715"> <p>5. 設備投資と採算性判断</p> <p>設備投資は企業の将来の基盤を構築します。一方でリスクも内在し、また、設備投資には新規事業、新製品開発、増産、合理化、3k対策、インフラ投資など様々な投資目的がある。設備投資の実行にあたって目的、資金調達、採算性評価において何を考慮すべきなのか、設備投資とその採算性判断のあり方を学びます。</p> </td> <td data-bbox="1545 468 1935 715"> <p>6. 赤字事業（製品）と黒字事業（製品）</p> <p>会社には赤字事業（製品）と黒字事業（製品）、さらには疑似赤字事業（製品）が存在しています。これらをどのように見分け、どのような行動を起こすべきかを学びます。</p> <p>事業あるいは製品の変動費、固定費、限界利益、営業利益などコスト構造と損益の関連を学びます。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="430 715 810 953"> <p>3. 製造原価と損益</p> <p>製造原価要素と製造原価、損益との関連を学びます。さらに、固定費、変動費、生産高と利益との関連を学びます。</p> <p>製造益を確保するために製造現場、資材・外注管理などの各部門は如何なる行動をとるべきかを学びます。</p> </td> <td data-bbox="810 715 1189 953"> <p>4. 利益とキャッシュフロー</p> <p>生産活動とPL、BS、CFの関連を理解します。</p> <p>例えば、在庫と利益・キャッシュフローとの間にはいかなる関連があるのか、『売れるは“ト”で作るとはどういうことか、販売に連動しない生産はPL、BS、CFにどのような影響を及ぼすのか、これらを正しく知って行動できるようにします。</p> </td> <td data-bbox="1189 715 1545 953"> <p>7. 利益感度分析</p> <p>工場経営をしていると予期せぬ事態に遭遇します。例えば、サプライヤーからの値上げ要求、最低賃金の上昇、お得意様からの値下げ要求、買い取り数量の削減要求など、これらの外的変動要因は利益にどのようなインパクトを与えるのか。管理者はその影響を速やかに把握し、適切な行動を起こさなければなりません。ここでは各種変動要因が損益に影響を及ぼす影響を学びます。</p> </td> <td data-bbox="1545 715 1935 953"> <p>8. グループ演習</p> <p>研修テーマの1. 現場のムダの発見と排除をテーマに実際の現場で課題の抽出から解決方法までをグループで討議し発表いたします。</p> <p>このテーマは大変重要なテーマで、できればご一工場を選定し、その工場で、素材・原材料の受入れから始まり、倉庫への格納、払出、製造、製品倉庫倉入れ、出荷に至る一連の工程を対象とした研修を行うと現実感があって研修効果が上がります。</p> <p>これには座学事前学習、工場現場実習、実習を通じた問題点の抽出、改善方法のグループ討議、発表などのプロセスを行うことができると研修の効果は大きくなります。</p> <p>大きな工場の場合、半日程度で課題を抽出することは困難である場合は、課題抽出は特定の部門（例えば、素材・原材料の受入れ、格納や完成品倉庫や製品出荷など）に限っても結構です。</p> </td> </tr> </table>	<p>1. 現場のムダの発見と排除</p> <p>製造現場には多くのムダがあります。何がムダか、何故ムダか、ムダをどのように排除するのか、素材・原材料調達から始まり、素材・原材料受入れ、素材・原材料倉庫格納、払出、加工、プロセス、検査、梱包、出荷、物流に至るまで工場全体のムダの認識とムダ排除の方法を学びます。</p>	<p>2. 管理のムダ</p> <p>企業活動には多くのムダがあります。これらのムダは製造現場の改善だけでは解決しないものが多いです。</p> <p>企業活動を営業部門の引き合いから始まり、PSI、生産管理、生産活動(調達・製造・製品倉入れ・出荷)、販売に至るまでを対象とし、管理者が解決すべき課題を学びます。</p>	<p>5. 設備投資と採算性判断</p> <p>設備投資は企業の将来の基盤を構築します。一方でリスクも内在し、また、設備投資には新規事業、新製品開発、増産、合理化、3k対策、インフラ投資など様々な投資目的がある。設備投資の実行にあたって目的、資金調達、採算性評価において何を考慮すべきなのか、設備投資とその採算性判断のあり方を学びます。</p>	<p>6. 赤字事業（製品）と黒字事業（製品）</p> <p>会社には赤字事業（製品）と黒字事業（製品）、さらには疑似赤字事業（製品）が存在しています。これらをどのように見分け、どのような行動を起こすべきかを学びます。</p> <p>事業あるいは製品の変動費、固定費、限界利益、営業利益などコスト構造と損益の関連を学びます。</p>	<p>3. 製造原価と損益</p> <p>製造原価要素と製造原価、損益との関連を学びます。さらに、固定費、変動費、生産高と利益との関連を学びます。</p> <p>製造益を確保するために製造現場、資材・外注管理などの各部門は如何なる行動をとるべきかを学びます。</p>	<p>4. 利益とキャッシュフロー</p> <p>生産活動とPL、BS、CFの関連を理解します。</p> <p>例えば、在庫と利益・キャッシュフローとの間にはいかなる関連があるのか、『売れるは“ト”で作るとはどういうことか、販売に連動しない生産はPL、BS、CFにどのような影響を及ぼすのか、これらを正しく知って行動できるようにします。</p>	<p>7. 利益感度分析</p> <p>工場経営をしていると予期せぬ事態に遭遇します。例えば、サプライヤーからの値上げ要求、最低賃金の上昇、お得意様からの値下げ要求、買い取り数量の削減要求など、これらの外的変動要因は利益にどのようなインパクトを与えるのか。管理者はその影響を速やかに把握し、適切な行動を起こさなければなりません。ここでは各種変動要因が損益に影響を及ぼす影響を学びます。</p>	<p>8. グループ演習</p> <p>研修テーマの1. 現場のムダの発見と排除をテーマに実際の現場で課題の抽出から解決方法までをグループで討議し発表いたします。</p> <p>このテーマは大変重要なテーマで、できればご一工場を選定し、その工場で、素材・原材料の受入れから始まり、倉庫への格納、払出、製造、製品倉庫倉入れ、出荷に至る一連の工程を対象とした研修を行うと現実感があって研修効果が上がります。</p> <p>これには座学事前学習、工場現場実習、実習を通じた問題点の抽出、改善方法のグループ討議、発表などのプロセスを行うことができると研修の効果は大きくなります。</p> <p>大きな工場の場合、半日程度で課題を抽出することは困難である場合は、課題抽出は特定の部門（例えば、素材・原材料の受入れ、格納や完成品倉庫や製品出荷など）に限っても結構です。</p>
<p>1. 現場のムダの発見と排除</p> <p>製造現場には多くのムダがあります。何がムダか、何故ムダか、ムダをどのように排除するのか、素材・原材料調達から始まり、素材・原材料受入れ、素材・原材料倉庫格納、払出、加工、プロセス、検査、梱包、出荷、物流に至るまで工場全体のムダの認識とムダ排除の方法を学びます。</p>	<p>2. 管理のムダ</p> <p>企業活動には多くのムダがあります。これらのムダは製造現場の改善だけでは解決しないものが多いです。</p> <p>企業活動を営業部門の引き合いから始まり、PSI、生産管理、生産活動(調達・製造・製品倉入れ・出荷)、販売に至るまでを対象とし、管理者が解決すべき課題を学びます。</p>	<p>5. 設備投資と採算性判断</p> <p>設備投資は企業の将来の基盤を構築します。一方でリスクも内在し、また、設備投資には新規事業、新製品開発、増産、合理化、3k対策、インフラ投資など様々な投資目的がある。設備投資の実行にあたって目的、資金調達、採算性評価において何を考慮すべきなのか、設備投資とその採算性判断のあり方を学びます。</p>	<p>6. 赤字事業（製品）と黒字事業（製品）</p> <p>会社には赤字事業（製品）と黒字事業（製品）、さらには疑似赤字事業（製品）が存在しています。これらをどのように見分け、どのような行動を起こすべきかを学びます。</p> <p>事業あるいは製品の変動費、固定費、限界利益、営業利益などコスト構造と損益の関連を学びます。</p>						
<p>3. 製造原価と損益</p> <p>製造原価要素と製造原価、損益との関連を学びます。さらに、固定費、変動費、生産高と利益との関連を学びます。</p> <p>製造益を確保するために製造現場、資材・外注管理などの各部門は如何なる行動をとるべきかを学びます。</p>	<p>4. 利益とキャッシュフロー</p> <p>生産活動とPL、BS、CFの関連を理解します。</p> <p>例えば、在庫と利益・キャッシュフローとの間にはいかなる関連があるのか、『売れるは“ト”で作るとはどういうことか、販売に連動しない生産はPL、BS、CFにどのような影響を及ぼすのか、これらを正しく知って行動できるようにします。</p>	<p>7. 利益感度分析</p> <p>工場経営をしていると予期せぬ事態に遭遇します。例えば、サプライヤーからの値上げ要求、最低賃金の上昇、お得意様からの値下げ要求、買い取り数量の削減要求など、これらの外的変動要因は利益にどのようなインパクトを与えるのか。管理者はその影響を速やかに把握し、適切な行動を起こさなければなりません。ここでは各種変動要因が損益に影響を及ぼす影響を学びます。</p>	<p>8. グループ演習</p> <p>研修テーマの1. 現場のムダの発見と排除をテーマに実際の現場で課題の抽出から解決方法までをグループで討議し発表いたします。</p> <p>このテーマは大変重要なテーマで、できればご一工場を選定し、その工場で、素材・原材料の受入れから始まり、倉庫への格納、払出、製造、製品倉庫倉入れ、出荷に至る一連の工程を対象とした研修を行うと現実感があって研修効果が上がります。</p> <p>これには座学事前学習、工場現場実習、実習を通じた問題点の抽出、改善方法のグループ討議、発表などのプロセスを行うことができると研修の効果は大きくなります。</p> <p>大きな工場の場合、半日程度で課題を抽出することは困難である場合は、課題抽出は特定の部門（例えば、素材・原材料の受入れ、格納や完成品倉庫や製品出荷など）に限っても結構です。</p>						
<p>受講対象者</p>	<p>製造業幹部・工場長・工場管理者育成研修</p>								
<p>受講前提</p>	<p>特になし</p>								
<p>研修方法</p>	<p>講義・ワークショップ</p>								
<p>期間</p>	<p>5日</p>								
<p>研修終了後のスキル習得目標</p>	<p>工場経営に必要な基本スキル身に着けます。</p>								

D X時代を見据えた新規事業開発研修



	<p>D X時代を見据えた新規事業開発研修</p>
<p>コース概要</p>	<p>製造業のDX推進担当者等を対象に、企業価値の向上・競争力強化を実現するために必要なDX推進力・ビジネス企画力の向上を目的とした6日間のワークショップで実施致します。</p> <p>新規事業を成功に導くためのステップ「アイデア創出」から「新規事業プレゼンテーション」を一連のプロセスとして講義とケーススタディによる実践的な演習を通して体系的に学びます。</p> <div data-bbox="447 529 1939 686" style="border: 2px solid red; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <pre> graph LR A[0.イノベーション 基礎学習 (1日間)] --> B[1.事業アイデア創出 (1日間)] B --> C[2.新規事業 シナリオ策定 (2日間)] C --> D[3.新規事業 戦略策定 (2日間)] D --> E[4.プレゼンテーション (1日間)] </pre> </div> <p>アイデア創出から、ビジネスモデルの具体的な構築方法等、事業化に向けた計画書作成までのメソドロジー（お作法）を学ぶところにフォーカスしています。最終日に役員会で社長含むマネジメント層への新規事業計画書発表・評価をGoalとしています。</p> <p>※ケースは、モデル企業を用意していますが、自社の今後のビジネス化を検討されている場合は自社のケースを使用します。</p>
<p>受講対象者</p>	<p>DX推進担当者、開発技術者中心として、新規事業に関連する企画・生産・購買・営業・マーケティング各部門の方々 * BtoB、BtoCは問いません。製造業のサービス化にも対応しております。</p>
<p>受講前提</p>	<p>特になし</p>
<p>研修方法</p>	<p>講義・ワークショップ</p>
<p>期間</p>	<p>6日</p>
<p>研修終了後の スキル習得目標</p>	<p>新規事業の成功確率を高める実践的な方法論を習得します。</p>

工場長育成

工場長育成プログラム（例） 職責から求められる育成内容

区分	工場運営機能（例）	トップマネジメント			推進ステップ・スケジュール概要											
		社長	営業本部長	工場長	1月目	2月目	3月目	4月目	5月目	6月目	7～8	9～10	11～12			
★：最終責任・決済、◎：起案・決定、○：実行、△：認知																
計画系	販売計画の立案		◎	★	Step : 2 工場受注～工場出荷までの業務フロー／プロセスの共有（生産管理部門と協業） ～概要を知る～						Step : 6 工場長としての決済方法の整備 ～決める～					
	「生存在」会議（調整）		○	★												
	工場稼働計画			◎												
	生産計画の立案	大日程・中日程			★											
		小日程（工程表）														
在庫計画				★												
基準系	製造BOMの整備			△	Step : 3 製造基準情報の共有による工場長役割の理解 ～設定する～						Step : 4 製造実績情報の共有による工場長役割の理解 ～設定する～					
	品質基準（品質保証）の設定			△												
	原価基準の設定			△												
	作業手順・要領書の設定			△												
予実系	進捗（納期）管理			△	Step : 1 工場長MUSTテーマの理論武装 ～必然～						Step : 5 工場長MUSTテーマの基準ツール設定 ～決める～					
	品質（歩留り）実績			△												
	原価（能率）/利益 実績			△												
	稼働率実績			△												
その他	品質「特採」判断			★	～内容の理解～						～決める～					
	「クレーム」責任			★												
	安全基準・安全整備			★												
	設備投資判断			★												
	法規・法令・条例 遵守			★												

工場長育成プログラム（例） 職位から求められる育成内容

区分	工場運営機能（例）	トップマネジメント		推進ステップ・スケジュール概要										
			工場長	1月目	2月目	3月目	4月目	5月目	6月目	7～8	9～10	11～12		
工場長（育成）のための 「ワンハンドレッド・スキル」	1 経営管理能力	「ワンハンドレッド・スキル」 チェック			Step : 1 『ワンハンドレッド・スキル』チェックに基づく、 工場長自身による実態認識 ～現状を知る～							Step : 5 工場長としての スキル歯止め ～決める～ ～残す～ (形式知)		
	2 指導統率				Step : 2 『ワンハンドレッド・スキル』チェックに基づく、 スキル要件の考察（講師指導） ～要件を理解する～									
	3 方針管理				Step : 3 工場長としての「弱み」を発見・対策考察 ～認知して対策考察～									
	4 現場改善				Step : 4 「弱み」克服のための取り組み ～試行する～									
	5 日常管理													
	6 人材開発													

コースの狙いと概要

◆概要

この「工場長育成コース」は、現場を率いる工場長に必要なスキルと役割を体系的に学ぶための6日間の研修です。工場長としてのリーダーシップや経営視点の養成から、技術や人材の継承方法、問題解決能力の強化、情報共有と創造性を促進するための「言える化」まで、幅広い内容を網羅します。特に、現場で直面する課題に対して、実践的に役立つアプローチを学び、現場の問題解決を加速する力を身につけることができます。

◆狙い（研修ゴール）

工場長育成コースでは、まず経営視点を強化し、経営層のビジョンと現場の行動がズレないように橋渡しをすることで、現場全体の目的意識を高めることを狙いとしています。次に、技術と人材の継承を体系的に見える化し、次世代リーダーを現場で育成しながら実践的な指導力を身につけます。その上で、現場の問題を見抜き、適切な課題設定を行うことで、チームの成長を促し業務改善を実現します。また、課題の構造化を通じて情報共有を進め、現場全体の連携を深め、創造的な解決策を引き出します。さらに、工場長としての役割やスキルを「言える化」し、現場で培った経験とスキルを後進にしっかり伝える力を養います。そして、最後に現状を振り返り、今後の工場長としてのありたい姿を描き、それを基にリーダーシップを強化し今後に向けた目標とビジョンを明確にすることで、持続的な成長と成果向上を目指します。

受講対象者

工場長候補者、または工場長に新たになられた方。

工場長育成コース 6日間の構成とポイント



1日目：工場長に求められる役割（1）～経営視点と「言える化」～
ポイント：経営における工場の位置づけを意識したマネジメントができる

2日目：工場長に求められる役割（2）～技術・人の継承～
ポイント：技術伝承と人材育成を体系的に実施できる

3日目：工場長に必要なスキル（1）～問題点・課題の設定～
ポイント：問題点・課題を設定できる

4日目：工場長に必要なスキル（2）～解決力の強化～
ポイント：問題点・課題を解決できる

5日目：工場長に必要なスキル（3）～言える化による情報共有と創造性～
ポイント：情報共有と創造性をもたらす

6日目：工場長に求められる役割とスキル～統合と伝承～
ポイント：工場長の役割とスキルの言える化、そして伝承

※10:00～17:00（途中休憩含む）で2時間×3セットという構成です。集中力を保ちつつ、しっかり内容を深められるリズムを意識しています。

※対象人数は3～5名程度をイメージしていますが、この人数であれば、リモートでの実施も可能です。

但し、候補者が多数の場合、章立てはそのままハードルを下げて「次世代リーダー育成コース」のような名称で再度検討させて頂く場合があります。

End Of File